Cisco Unified Intelligence Center アプリケーションのオンラインヘルプ

初版：2015 年 08 月 27 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。 このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。 このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。 添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコによる TCP ヘッダー圧縮の実装には、カリフォルニア大学バークレー校（UCB）が UNIX オペレーティング システムの UCB パブリック ドメイン バージョンの一部として開発したプログラムを使用しています。 All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。 シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。 マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。 説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. シスコの商標の一覧は http://www.cisco.com/go/trademarksでご確認いただけます。 掲載されている第三者の商標はそれぞれの権利者の財産です。 「パートナー」または「partner」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。 (1110R)

© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

Unified Intelligence Center の概要 1

概要 1

ダッシュボード（Dashboard） 3

ダッシュボードの概要 3

ダッシュボード マネージャ 4

ダッシュボードの表示 4

ダッシュボードの作成 5

ダッシュボードへの項目の追加 5

スライドショーの実行 7

ダッシュボード パーマリンクの表示 8

レポート定義 9

レポート定義マネージャ 9

ストック レポート定義 10

レポート定義の作成または編集 10

レポート定義のインポート（Import a Report Definition） 11

データベース クエリー タイプのレポート定義の作成 12

匿名ブロック タイプのレポート定義の作成 13

ストアド プロシージャ タイプのレポート定義の作成 14

リアルタイム ストリーミング タイプのレポート定義の作成 16

ドリルダウンの作成または編集 17

Unified Intelligence Center SQL 構文 17

レポート 21

レポートの概要 22

Report Manager 22

レポートの実行 25

レポート ビューア 25

履歴およびリアルタイム レポート 26

ライブ データ レポート 27
ストック レポート 28
レポートの作成または編集 29
レポートのインポート 30
レポートのオンライン ヘルプの設定 31
レポート、レポート定義、およびカテゴリのエクスポート 32
レポート パーマリンクの表示 33
フィルタのタイプ 34
日付範囲フィルタの設定 34
値リストまたはコレクション フィルタの設定 36
詳細フィルタの設定 38
利用可能なビュー 39
グリッド ビューの作成 40
ゲージ ビューの作成 41
グラフ ビューの作成 43
グループ化 45
フィールドのしきい値インジケータの設定 46
しきい値の追加と編集 48
データ ソース 49
データ ソースの概要 49
データ ソース エディタ 49
ストリーミング データ ソース 51
クエリー ベースのデータ ソースの作成または編集 51
データ ソースのノードの切り替え 53
データ ソースの削除 53
値リスト 55
値リストとコレクションの概要 55
値リスト 55
値リストの作成または編集 57
コレクションの作成または編集 58
セキュリティ 61
管理者の概要 61

セキュリティの概要 62
ユーザ リスト 62
ユーザの作成 63
ユーザ グループ 65
ユーザ グループについて 66
ユーザ グループの作成 67
権限について 68
ユーザの役割および権限 69
ユーザ権限の管理 70
割り当てられているグループ権限 70
割り当てられているユーザ権限 72
選択した権限で実行 73
Cisco Unified Intelligence Center の監査証跡ロギング 73
Unified Intelligence Center の監査証跡ロギングの表示 74
監査証跡レポート 74
セキュリティの考慮事項 74
スケジューラ 77
スケジュール リスト 77
レポートのスケジュールの作成 78
スケジュール済みレポートのメール送信の設定 79
リモート ロケーションへのレポート保存の設定 80
ガジェット ツールバー 83
ガジェット ツールバー 83

第 1 章

Unified Intelligence Center の概要

- 概要，1 ページ

概要

Unified Intelligence Center は、履歴、リアルタイム、およびライブ データのレポートとダッシュボードを提供する Web ベースのアプリケーションです。

Unified Intelligence Center は、主に次の目的に使用されます。

- 基本ソリューションのデータベースからデータを取得する。 基本ソリューションはコンタクト センター製品のいずれかです。
- 特定のデータを取得するためのカスタム クエリーを作成できるようにする。
- レポートの視覚的表現をカスタマイズする。
- レポートに表示するデータをカスタマイズする。
- ユーザのグループがそれぞれのロールに基づいて特定のデータを表示できるようにする。

概要

第 2 章

ダッシュボード（Dashboard）

- ダッシュボードの概要，3 ページ
- ダッシュボード マネージャ，4 ページ
- ダッシュボードの表示，4 ページ
- ダッシュボードの作成，5 ページ
- ダッシュボードへの項目の追加，5 ページ
- スライドショーの実行，7 ページ
- ダッシュボード パーマリンクの表示，8 ページ

ダッシュボードの概要

ダッシュボードは、特定のワークフローや責任に関連したレポート、スケジュールされたレポート、付箋、および Web ベースの要素（URL や Web ウィジェットなど）を表示する Web ページです。

左パネルで [ダッシュボード（Dashboards）] ドロワをクリックすると、[利用可能なダッシュボード（Available Dashboards）] ページが開きます。 （ダッシュボード デザイナ ユーザ ロールを持っているユーザだけが、ダッシュボード ドロワーを開くことができます）。 ダッシュボード ドロワーを開いたときに表示されるダッシュボードは、自分と他のユーザによって作成されたダッシュボードです。 他のユーザが作成した[ダッシュボード（Dashboards）] を表示できるのは、そのユーザによって表示の権限が与えられたからです。

（注）
- すべての[ダッシュボード（Dashboards）]は、ダッシュボード作成者によって作成される必要があります。
- Unified Intelligence Center には、デフォルトのダッシュボードはインストールされません。
- ダッシュボード インターフェイスでのすべての操作は、ダッシュボードとカテゴリに対するユーザの役割とオブジェクト権限に基づきます。

ダッシュボード マネージャ

ダッシュボードは、Unified Intelligence Center の独自の機能で、Web ページ、一部のウィジェット、一部のレポートなどの複数のオブジェクトを統合されたビューに表示することができます。

ダッシュボードの表示

ダッシュボードを表示するには、ダッシュボードをクリックするか、ダッシュボードを右クリックして、[表示（View）] を選択します。

（注） 実行権限がある場合、ダッシュボードのカテゴリに対する権限に基づいてダッシュボードを表示できます また、カテゴリを表示できない場合は、ダッシュボードに対する実行権限または書き込み権限を持っていたとしても、ダッシュボードを見つけることはできません。

手順

ステップ 1 [追加（Add）]をクリックして、ダッシュボードに項目を追加します。デフォルトでは、新規ダッシュボードは空です。

（注） 書き込み権限がないダッシュボード作成者は、項目をダッシュボードに追加できますが、追加した項目を保存することはできません。

ステップ 2 [自動更新（Auto Refresh）] をクリックして、リアルタイムでデータを更新します。 デフォルトで、[自動更新（Auto Refresh）] はオンになっています。

ステップ 3 [更新（Refresh）] をクリックして、システム ウィンドウ内のデータを更新します。 この更新では、[自動更新（Auto Refresh）] チェックボックスの状態は変化しません。

ステップ 4 [スライドショー（Slideshow）] を選択して、ダッシュボード項目をスライドショーとして表示します。 これは、ダッシュボードに項目を追加するまで無効になっています。

ステップ 5 [ポップアウト（Pop Out）] をクリックして、ダッシュボード パーマリンクを新しいブラウザで開きます。

ステップ 6 [ヘルプ（Help）] をクリックして、ダッシュボードのヘルプ ページを開きます。

ステップ 7 [保存（Save）] をクリックします。

ダッシュボードの作成

ダッシュボードを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [ダッシュボード] タブをクリックします。

ステップ 2 [ダッシュボード] タブで、ダッシュボードを配置するフォルダを右クリックし、[ダッシュボードの作成] を選択します。

ステップ 3 [ダッシュボードの作成] ウィンドウで、ダッシュボードに名前を付けます。

ステップ 4 ユーザに権限を割り当て、[OK] をクリックします。

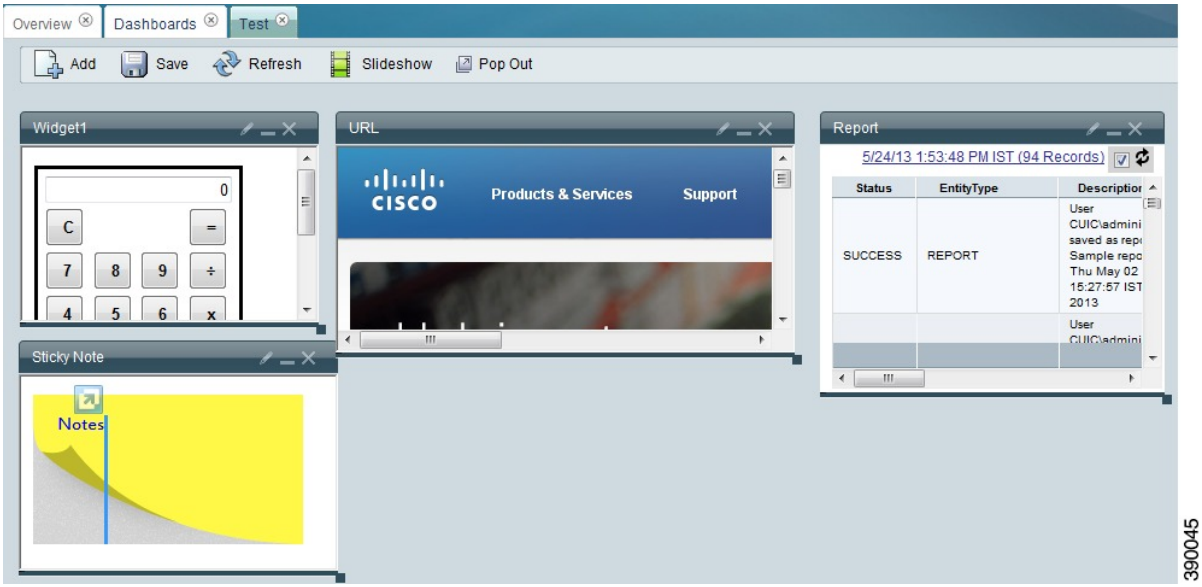
ダッシュボードへの項目の追加

次の項目をダッシュボードに追加することができます。

- [レポート]：既存のレポートをダッシュボード上に表示します。
- [スケジュール]：スケジュール済みレポートをダッシュボード上に表示します。
- [URL]：Web ページをダッシュボード上に表示します。
- [付箋]：付箋をダッシュボードに追加します。

- [カスタムウィジェット]：カスタム ウィジェットをダッシュボードに追加します。

図 *1*：ダッシュボードのウィジェット



次の手順で項目をダッシュボードに追加します。

手順

ステップ 1 [ダッシュボード] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 項目を追加する [ダッシュボード] をクリックします。

（注） ダッシュボードを追加してそこに項目を追加することもできます。ダッシュボードの作成，（5 ページ）を参照してください。

ステップ 3 ダッシュボードで、[追加] をクリックします。

ステップ 4 [タイトル] ボックスに、項目の名前を入力します。

ステップ 5 [タイプ] ドロップダウン リストから、追加する項目のタイプを選択します。

ステップ 6 [サイズ] セクションで、項目の横幅と縦幅をピクセル単位で定義します。

ステップ 7 [位置] セクションで、項目を配置するダッシュボードの左側からの距離と上部からの距離を定義します。

ステップ 8 [ダッシュボード項目コンテンツ] セクションで、ステップ 5 で選択したダッシュボード項目を定義します。

レポートを表示するには、次の手順を実行します。

a) 矢印をクリックしてフォルダを移動し、ダッシュボード上に表示するレポートまで移動します。

b) レポートを選択します。

c) [OK] をクリックします。

スケジュール済みのレポートを表示するには、次の手順を実行します。

a) スケジュールを [スケジュール] ボックスから選択します。
（注） [スケジュールの検索] ボックスを使用してスケジュールを検索できます。

b) [OK] をクリックします。

URL を表示するには、次の手順を実行します。

a) [URL] ボックスで、ダッシュボード上に表示する Web ページのアドレスを入力します。
b) [OK] をクリックします。

カスタム ウィジェットを表示するには、次の手順を実行します。

a) [コンテンツ]ボックスで、ダッシュボード上に表示するウィジェットの Java コードを入力します。
b) [OK] をクリックします。

付箋を表示するには、次の手順を実行します。

a) [コンテンツ] ボックスで、付箋のコンテンツを入力します。
b) [OK] をクリックします。

（注） Unified Intelligence Center が HTTPS モードの場合は、HTTP ベースのウィジェットの URL をダッシュボードで設定できません。

スライドショーの実行

新しいウィンドウに追加したダッシュボード項目を表示するには、[スライドショー（Slideshow）] 機能を使用します。

スライドショー機能を使用するには、次の手順に従ってください:

手順

ステップ 1 ツールバーの[スライドショー（Slideshow）]をクリックします。 このオプションは、新しいウィンドウでスライドショーを開きます。
（注） ダッシュボードに項目が 1 つしかない場合でもスライドショーを実行できますが、画面に変化はありません。

ステップ 2 スライドショーの開始、停止、一時停止、および間隔の設定を行うには、次の操作を実行します。

- [再生（Play）] : スライドショーを開始します。
- [一時停止（Pause）] ：一時的にスライドショーを一時停止します。
- [停止（Stop）] : スライドショーを停止し、ダッシュボードに戻ります。

- [間隔の設定（Set Interval）] : スライドショーの間隔を設定できるダイアログボックスを開きます。

  （注） 最小間隔は 1 秒で、最大間隔は 900 秒です。

ダッシュボード パーマリンクの表示

（注） 永続的ハイパーリンクは Web ブラウザからのみアクセスできます。 Microsoft Excel のようなアプリケーションでアクセスし、データをプルしたり、ダッシュボードを表示することはできません。

ダッシュボードへの永続的ハイパーリンクを取得するには、次の手順を実行します。

はじめる前に

ダッシュボードへの永続的ハイパーリンクはダッシュボードの作成時に作成されます。

手順

ステップ 1 左ペインで、 [ダッシュボード（Dashboards）] タブをクリックします。

ステップ 2 特定のダッシュボードに移動します。

ステップ 3 そのダッシュボードを右クリックして、[Html リンク（Html Link）] を選択します。

ステップ 4 [Html リンク（Html Link）] をコピーします。 これがダッシュボードへの永続的ハイパーリンクです。

（注） 認証なしでハイパーリンクにアクセスできるようにするには、[未認証アクセスを有効にする（Enable Unauthenticated Access）] チェックボックスをオンにします。

（注） ハイパーリンクは、このチェックボックスがオンになってるかどうかに関係なく、初めてアクセスしたときに認証が要求されます。

（注） ライブ データ レポートを含むダッシュボードの場合は、[未認証アクセスを有効にする（Enable Unauthenticated Access）] チェックボックスをオンにしないでください。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

第 3 章

レポート定義

- レポート定義マネージャ，9 ページ
- ストック レポート定義，10 ページ
- レポート定義の作成または編集，10 ページ
- レポート定義のインポート（Import a Report Definition），11 ページ
- データベース クエリー タイプのレポート定義の作成，12 ページ
- 匿名ブロック タイプのレポート定義の作成，13 ページ
- ストアド プロシージャ タイプのレポート定義の作成，14 ページ
- リアルタイム ストリーミング タイプのレポート定義の作成，16 ページ
- ドリルダウンの作成または編集，17 ページ
- Unified Intelligence Center SQL 構文，17 ページ

レポート定義マネージャ

各レポートには、[レポート定義（Report Definitions）] があります。これは、各レポート テンプレートに対し、データがどのようにデータ ソースから取得されるかを表します。

データがどのように取得されるか（シンプルな MS SQL クエリー、ストアド プロシージャ クエリー、リアルタイムストリーミング、または匿名ブロック クエリー）を指定する以外に、レポート定義には、取得されたデータセットも含まれます。 これには、フィールド、フィルタ、数式、リフレッシュ レート、およびレポートのキー基準フィールドがあります。

（注） Unified Intelligence Center は、各レポートテンプレートに対してストック [レポート定義（Report Definitions）] をインストールします。

[レポート定義（Report Definitions）] インターフェイスへのアクセスは、ライセンス タイプとユーザの役割によって制御されます。 このドロワを開くには、プレミアム ライセンスと[レポート定義（Report Definitions）] 作成者のユーザの役割を持っている必要があります。

（注） [レポート定義（Report Definitions）] インターフェイスでのすべての操作は、レポート定義とカテゴリに対するユーザの役割とオブジェクト権限に基づきます。

ストック レポート定義

新しいレポート定義を作成することも、既存のレポート定義を変更して新しい定義として保存することもできます。 これを実行するには、ストック レポート定義を右クリックして [名前を付けて保存（Save As）] を選択するか、ストック レポート定義を編集して [名前を付けて保存（Save As）] を選択します。 レポート定義を新しい名前で保存して、後で編集することができます。

（注） ストック レポート定義の名前を変更することはできません。

ストック レポート定義を削除できるのは、[システム設定管理者（System Configuration Administrator）]と[レポート定義作成者（Report Definition Designer]）のユーザ ロールが割り当てられ、その特定のレポート定義に対する[書き込み（WRITE）]権限を持っている場合に限られます。

（注） プレミアム ライセンスを持っている場合は、すべてのストック レポート定義、および作成されたすべてのカスタム レポート定義がリストに含まれています。

レポート定義の作成または編集

レポート定義は、左ペインの [レポート定義（Report Definitions）] ドロワーにあります。 レポート定義を分類するためのフォルダを作成できます。

レポート定義は、その中で使用されるクエリー タイプに基づきます。 クエリー タイプを以下に示します。

- データベース クエリー：これは、レポート定義のほとんどで広く使用される単純なデータベースクエリーです。 データベースクエリーを使用してレポート定義を設定するには、データベース クエリー タイプのレポート定義の作成, （12 ページ）を参照してください。
- 匿名ブロック：これは、特定のデータをプルするために書き込まれるクエリーのブロックです。 匿名ブロックを使用してレポート定義を設定するには、匿名ブロック タイプのレポート定義の作成, （13 ページ）を参照してください。

- ストアドプロシージャ：これは、特定のデータを取得するために記述された事前定義のプロシージャです。 ストアド プロシージャを使用してレポート定義を設定するには、ストアドプロシージャ タイプのレポート定義の作成, （14 ページ）を参照してください。
- リアルタイムストリーミング：このクエリーは、データをリアルタイムにプッシュするストリーミング ベースのデータ ソースからデータを取得します。 リアルタイム ストリーミングのレポート定義を設定するには、リアルタイム ストリーミング タイプのレポート定義の作成, （16 ページ）を参照してください。

レポート定義のインポート（Import a Report Definition）

既存の Unified Intelligence Center レポート定義 XML ファイルを使用している場合は、それをアプリケーションにインポートしてからカスタマイズすることができます。

（注） インポートするレポート定義で使用されているデータ ソースが Unified Intelligence Center で設定されていることを確認します。 また、レポート定義で値リストが定義されている場合は、その値リストで使用されているデータ ソースが Unified Intelligence Center でも定義されていることを確認します。

次の手順では、既存の Unified Intelligence Center レポート定義をインポートする方法について説明します。

手順

ステップ 1 左ペインで、 [レポート定義（Report Definitions）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 レポート定義をインポートするフォルダに移動します。
サブフォルダを作成するには、該当するフォルダに移動して、そのフォルダを右クリックし、[サブカテゴリの作成（Create Sub-category）] を選択します。

ステップ 3 [定義のインポート（Import Definition）] をクリックします。

ステップ 4 [ファイル名(XMLファイル)（File Name (XML File)）] フィールドで、[参照（Browse）] をクリックして XML ファイルを選択します。

ステップ 5 レポート定義 xml ファイルを参照して選択し、[開く（Open）] をクリックします。

ステップ 6 [レポート定義のデータソース（Data Source for ReportDefinition）] ドロップダウン リストから、レポート定義で使用されるデータ ソースを選択します。

ステップ 7 [値リストのデータソース] ドロップダウン リストから、レポート定義内で定義されている値リストで使用されるデータ ソースを選択します。

（注） 値リストのデータ ソースがレポート定義と同じデータ ソースを使用しない場合のみ、そのデータ ソースを選択する必要があります。 リアルタイム ストリーミングのレポート定義については、値リストのデータ ソース選択が必須です。

ステップ 8 [保存先（Save To）] フィールドで、インポートしたレポートを配置するフォルダを参照します。矢印を使用してフォルダを展開します。

ステップ 9 [インポート（Import）] をクリックします。

データベース クエリー タイプのレポート定義の作成

データベース クエリーを使用してレポート定義を作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左ペインで、 [レポート定義（Report Definitions）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 レポート定義を作成するカテゴリに移動します。

（注） サブカテゴリを作成するには、該当するカテゴリに移動して、そのカテゴリを右クリックし、[サブカテゴリの作成（Create Sub-category）] を選択します。

ステップ 3 カテゴリを右クリックして、[レポート定義の作成（Create Report Definition）] を選択します。

ステップ 4 [名前（Name）] フィールドに、レポート定義の名前を入力します。

ステップ 5 [説明（Description）] フィールドに、レポート定義の説明を入力します。

ステップ 6 適切な権限を割り当て、[OK（OK）] をクリックします。

ステップ 7 [クエリーのタイプ（Query Type）] ドロップダウン リストから、[データベースクエリー（Database Query）] を選択します。

ステップ 8 [データソース（Data Source）] ドロップダウン リストから、該当するデータ ソースを選択します。

（注） 選択したデータ ソースの [データソースの状態（Data Source Status）] が [オンライン（Online）] になっていることを確認します。

ステップ 9 [クエリー（Query）] フィールドに、データベース クエリーを入力します。

（注） データベース クエリー タイプでサポートされる最大長は 25000 文字（空白を含む）です。

ステップ 10 [フィールドの作成（Create Fields）] をクリックして、クエリーを検証し、データベースからフィールドを取得します。

ステップ 11 [フィールド（Fields）] タブで、既存のフィールドを設定するか、新しいフィールドをレポート定義に追加します。

ステップ 12 [プロパティ（Properties）] をクリックします。

ステップ 13 [バージョン（Version）] 番号と [作成者（Author）] 名を入力します。

ステップ 14 [キー基準フィールド（Key Criteria Field）] ドロップダウン リストから、キー基準として機能するフィールドを選択します。

（注） リアルタイム レポートの場合は、ステップ 15 と 16 をスキップします。

ステップ 15 [履歴（Historical）] チェックボックスをオンにして、900 秒を超えるリフレッシュ レートを維持します。

ステップ 16 [履歴キーフィールド（Historical Key Field）] ドロップダウン リストから、履歴キー フィールドとして機能するフィールドを選択します。

（注） このフィールドは、[履歴（Historical）] チェックボックスがオンになっている場合にだけ使用できます。

ステップ 17 [保存（Save）] をクリックします。

匿名ブロック タイプのレポート定義の作成

匿名ブロックを使用してレポート定義を作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左ペインで、 [レポート定義（Report Definitions）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 レポート定義を作成するカテゴリに移動します。

（注） サブカテゴリを作成するには、該当するカテゴリに移動して、そのカテゴリを右クリックし、[サブカテゴリの作成（Create Sub-category）] を選択します。

ステップ 3 カテゴリを右クリックして、[レポート定義の作成（Create Report Definition）] を選択します。

ステップ 4 [名前（Name）] フィールドに、レポート定義の名前を入力します。

ステップ 5 [説明（Description）] フィールドに、レポート定義の説明を入力します。

ステップ 6 適切な権限を割り当て、[OK（OK）] をクリックします。

ステップ 7 [クエリーのタイプ（Query Type）] ドロップダウン リストから、[匿名ブロック（Anonymous Block）] を選択します。

ステップ 8 [データ ソース（Data Source）] ドロップダウン リストから、該当するデータ ソースを選択します。

（注） 選択したデータ ソースの [データソースの状態（Data Source Status）] が [オンライン（Online）] になっていることを確認します。

ステップ 9 [匿名ブロック（Anonymous Block）] フィールドに、パラメータを含むデータベース クエリーを入力します。

（注） 匿名ブロック クエリー タイプでサポートされる最大長は 25000 文字（空白を含む）です。

（注） 匿名ブロック内のパラメータ名は、先頭にコロンを付ける必要があります（`:paramName` など）。 パラメータ名の先頭にあるコロンは、Unified Intelligence Center によってアット マーク（@）に置き換えられます。

ステップ 10 [パラメータの作成（Create Parameters）] をクリックして、パラメータのリストを表示します。

ステップ 11 [パラメータ（Parameters）] セクションの [値（Value）] 列に、クエリー内のパラメータ変数に置き換えられる各パラメータの値を入力します。

ステップ 12 [フィールドの作成（Create Fields）] をクリックして、クエリーを検証し、データベースからフィールドを取得します。

（注） パラメータのいずれかのプロパティを編集するには、[パラメータ（Parameters）] タブをクリックします。

ステップ 13 [フィールド（Fields）] タブで、既存のフィールドを設定するか、新しいフィールドをレポート定義に追加します。

ステップ 14 [プロパティ（Properties）] をクリックします。

ステップ 15 [バージョン（Version）] 番号と [作成者（Author）] 名を入力します。

（注） リアルタイム レポートの場合は、ステップ 16 と 17 をスキップします。

ステップ 16 [履歴（Historical）] チェックボックスをオンにして、900 秒を超えるリフレッシュ レートを維持します。

ステップ 17 [履歴キーフィールド（Historical Key Field）] ドロップダウン リストから、履歴キー フィールドとして機能するフィールドを選択します。

（注） このフィールドは、[履歴（Historical）] チェックボックスがオンになっている場合にだけ使用できます。

ステップ 18 [保存（Save）] をクリックします。

ストアド プロシージャ タイプのレポート定義の作成

ストアド プロシージャ クエリー タイプを使用してレポート定義を作成する場合は、ストアド プロシージャの場所が Unified Intelligence Center からアクセス可能なことを確認してください。

ストアド プロシージャを使用してレポート定義を作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左ペインで、 [レポート定義（Report Definitions）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 レポート定義を作成するカテゴリに移動します。

（注） サブカテゴリを作成するには、該当するカテゴリに移動して、そのカテゴリを右クリックし、[サブカテゴリの作成（Create Sub-category）] を選択します。

ステップ 3 カテゴリを右クリックして、[レポート定義の作成（Create Report Definition）] を選択します。

ステップ 4 [名前（Name）] フィールドに、レポート定義の名前を入力します。

ステップ 5 [説明（Description）] フィールドに、レポート定義の説明を入力します。

ステップ 6 適切な権限を割り当て、[OK（OK）] をクリックします。

ステップ 7 [クエリーのタイプ（Query Type）] ドロップダウン リストから、[ストアドプロシージャ（Stored Procedure）] を選択します。

ステップ 8 [データソース（Data Source）] ドロップダウン リストから、該当するデータ ソースを選択します。

（注） 選択したデータ ソースの [データソースの状態（Data Source Status）] が [オンライン（Online）] になっていることを確認します。

ステップ 9 [ストアドプロシージャ（Stored Procedure）] フィールドに、ストアド プロシージャの名前を入力します。

ステップ 10 [パラメータの作成（Create Parameters）] をクリックして、パラメータのリストを表示します。

ステップ 11 [値（Value）] 列に、クエリー内のパラメータ変数に代入される各パラメータの値を入力します。

ステップ 12 [フィールドの作成（Create Fields）] をクリックして、クエリーを検証し、データベースからフィールドを取得します。

（注） パラメータのいずれかのプロパティを編集するには、[パラメータ（Parameters）] タブをクリックします。

ステップ 13 [フィールド（Fields）] タブで、既存のフィールドを設定するか、新しいフィールドをレポート定義に追加します。

ステップ 14 [プロパティ（Properties）] をクリックします。

ステップ 15 [バージョン（Version）] 番号と [作成者（Author）] 名を入力します。

ステップ 16 [キー基準フィールド（Key Criteria Field）] ドロップダウン リストから、キー基準として機能するフィールドを選択します。

（注） リアルタイム レポートの場合は、ステップ 17 と 18 をスキップします。

ステップ 17 [履歴（Historical）] チェックボックスをオンにして、900 秒を超えるリフレッシュ レートを維持します。

ステップ 18 [履歴キーフィールド（Historical Key Field）] ドロップダウン リストから、履歴キー フィールドとして機能するフィールドを選択します。

（注） このフィールドは、[履歴（Historical）] チェックボックスがオンになっている場合にだけ使用できます。

ステップ 19 [保存（Save）] をクリックします。

リアルタイムストリーミングタイプのレポート定義の作成

リアルタイム ストリーミング クエリー タイプのレポート定義を作成するには、ストリーミング ベースのデータ ソースが Unified Intelligence Center ですでに設定されている必要があります。

ストリーミングベースのデータ ソースを使用してレポート定義を作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左ペインで、[レポート定義（Report Definitions）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 レポート定義を作成するカテゴリに移動します。

（注） サブカテゴリを作成するには、該当するカテゴリに移動して、そのカテゴリを右クリックし、[サブカテゴリの作成（Create Sub-category）] を選択します。

ステップ 3 カテゴリを右クリックして、[レポート定義の作成（Create Report Definition）] を選択します。

ステップ 4 [名前（Name）] フィールドに、レポート定義の名前を入力します。

ステップ 5 [説明（Description）] フィールドに、レポート定義の説明を入力します。

ステップ 6 適切な権限を割り当て、[OK（OK）] をクリックします。

ステップ 7 [クエリーのタイプ（Query Type）] ドロップダウン リストから、[リアルタイムストリーミング（Real Time Streaming）] を選択します。

ステップ 8 [データソース（Data Source）] ドロップダウン リストから、ストリーミング データ ソースを選択します。

（注） 選択したデータ ソースの [データソースの状態（Data Source Status）] が [オンライン（Online）] になっていることを確認します。

ステップ 9 [トピックの取得（Fetch Topic）] をクリックして、フィールドのリストを表示します。

ステップ 10 必要なトピックと関連するフィールドを選択します。

（注） レポート定義に選択できるのは 1 つのトピックだけです。

（注） フィールドの横にあるアスタリスク（*）は、トピック キーフィールドを示します。

フィールドの横にあるプラス記号（+）は、オブジェクト キー フィールドを示します。

ステップ 11 [フィールド（Fields）] タブで、既存のフィールドを設定するか、新しいフィールドをレポート定義に追加します。

（注） ライブ データ レポートでは、フィルタ フィールドが使用できません。

ステップ 12 [プロパティ（Properties）]をクリックします。

ステップ 13 [バージョン（Version）] 番号と [作成者（Author）] 名を入力します。

ステップ 14 [保存（Save）] をクリックします。

ドリルダウンの作成または編集

手順

ステップ 1 左ペインで、[レポート定義（Report Definitions）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 ドリルダウンを作成するレポートの [レポート定義（Report Definitions）]を開きます。

ステップ 3 [フィールド（Fields）] タブをクリックして、ドリルダウンを作成するフィールドを選択します。

ステップ 4 [ドリルダウン（Drilldowns）] をクリックします。
これにより、[すべてのドリルダウン（All Drilldowns）]パネルが表示されます。 このパネルには、そのフィールドにすでに存在しているすべてのドリルダウンが表示されます。

（注） 既存のドリルダウンを編集するには、ドリルダウンを選択して、[編集（Edit）] をクリックします。

ステップ 5 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 6 [ドリルダウン（Drilldowns）] の名前を入力します。

（注） 匿名ブロックまたはストアド プロシージャに基づくレポートにドリルダウンすることはできません。

リアルタイム ストリーミングに基づくレポートにドリルダウンしたり、そのレポートからドリルダウンすることはできません。

ステップ 7 レポート名の横にある オプション ボタン（ラジオ ボタン）をクリックして、レポートを選択します。
これにより、そのレポート内のすべてのフィールドが表示されたパネルが開きます。

ステップ 8 フィールドを強調表示して、[編集（Edit）] をクリックします。

ステップ 9 フィルタの値を編集して [OK] をクリックします。

Unified Intelligence Center SQL 構文

ガイドライン

- SQL クエリーではコメントを使用できません。
- データベース クエリーには、SELECT ステートメントの後に 1 つ以上のフィールドが含まれている必要があります。 例：`SELECT [fields] FROM [tables] WHERE [...]`。

  次のサンプル クエリー `select CallTypeID, TimeZone from Call_Type_Interval where TimeZone = 240` により、フィールド CallTypeID および TimeZone が作成されます。

- SELECT* は使用できないため、SQL クエリーから返されるすべてのフィールドを列挙する必要があります。
- 匿名ブロックは、結果セットを返す有効な SQL ステートメントである必要があります。「paramName」のように名前が付けられたパラメータを組み込むことができます。ここで、パラメータ名の最初の文字は必ずコロンであり、「paramName」はパラメータ名の残りの部分です。

  ユーザによって入力されたパラメータ値は、対応するパラメータ名の代わりに、匿名ブロックの本文に代入されます。
- Informix と SQL Server のストアドプロシージャがサポートされています。 ストアドプロシージャは結果セットを返す必要があります。 ストアド プロシージャの場合、パラメータを使用して、データベースにストアド プロシージャ コールを行って結果セットを取得するときに値が渡されます。
- Where 句で Datediff() 関数を使用すると、パフォーマンスの問題が発生します。
- SQL クエリーに名前を持たないフィールドが存在することはあり得ません。 各フィールドにはエイリアスが必要です。
- エイリアス名は固有である必要があります。
- Informix ストアド プロシージャには返されるステートメントが含まれている必要があります。また、返されるステートメントの各データ型には、文字 AS を付けて指定された対応するエイリアスが必要です。

  たとえば、CHAR(32) AS returnID、CHAR(32) AS returnName、INTEGER AS returnRefreshrate、BOOLEAN as returnHistorical を返します。CHAR(32)、CHAR(32)、INTEGER、BOOLEAN を返すのではありません。エイリアスを指定しなければ、フィールド名は単に fieldN になります。ここで、N は field1、field2 など、名前のないフィールドのインデックスです。
- Informix ストアドプロシージャのパラメータ名は、先頭にアットマークが付きます（@param1 や @param2 など）。

フィールドとパラメータに対してサポートされているデータ型

- *BIGINT*、*DECIMAL*、*DOUBLE*、*FLOAT*、*INTEGER*、*NUMERIC*、*SMALLINT*、*REAL*、*TINYINT*
- *CHAR*、*LONGNVARCHAR*、*LONGVARCHAR*、*NCHAR*、*NVARCHAR*、*VARCHAR*
- *DATETIME*
- *BOOLEAN*、*BIT*

SQL パーサーの特殊キーワード（サンプル クエリー付き）

- ALL （SQL Server または Informix）：SELECT ALL CallTypeID from Call_Type_Interval
- DISTINCT（SQL Server または Informix）：SELECT DISTINCT CallTypeID from Call_Type_Interval
- TOP（SQL Server）：SELECT TOP 5 CallTypeID from Call_Type_Interval

- FIRST（Informix）：SELECT FIRST 5 ID FROM CUICDATASETINFO
- UNIQUE（Informix）：SELECT UNIQUE NAME FROM CUICGRID

Informix と SQL Server の両方に対して、**Unified Intelligence Center でサポートされている集計関数は**、SUM、COUNT、MIN、MAX、および AVG です。

レポート定義フィールドが集計関数（たとえば、*[*合計（*sum*）*](CallsHandled)*）であり、そのフィールドがキー基準フィールドまたは詳細フィルタである場合、サポートされる構文は次のとおりです。

```
SELECT (fields)FROM [tables]
WHERE [...]
GROUP BY [...]
HAVING [...] optional
ORDER BY [...] optional
```

サンプル クエリー：

```
select CallTypeID, TimeZone, sum(CallsHandled) as total, avg(CallsHandled) as average
from Call_Type_Interval
where TimeZone = 240
group by CallTypeID, TimeZone
having sum(CallsHandled) in(3, 5, 13) and avg(CallsHandled) > 0
order by CallTypeID
```

第 4 章

レポート

- レポートの概要，22 ページ
- Report Manager，22 ページ
- レポートの実行，25 ページ
- レポート ビューア，25 ページ
- ストック レポート，28 ページ
- レポートの作成または編集，29 ページ
- レポートのインポート，30 ページ
- レポートのオンライン ヘルプの設定，31 ページ
- レポート、レポート定義、およびカテゴリのエクスポート，32 ページ
- レポート パーマリンクの表示，33 ページ
- フィルタのタイプ，34 ページ
- 日付範囲フィルタの設定，34 ページ
- 値リストまたはコレクション フィルタの設定，36 ページ
- 詳細フィルタの設定，38 ページ
- 利用可能なビュー，39 ページ
- グリッド ビューの作成，40 ページ
- ゲージ ビューの作成，41 ページ
- グラフ ビューの作成，43 ページ
- グループ化，45 ページ
- フィールドのしきい値インジケータの設定，46 ページ
- しきい値の追加と編集，48 ページ

レポートの概要

レポートには、レポート定義から返されたデータが表示されます。 このデータは、データベースクエリから抽出され、さまざまなレポート ビューにグリッド、グラフ、またはゲージとして表示できます。

シスコでは、Unified Intelligence Center で使用できるストック テンプレートを用意しています。 シスコの Web サイトからストック レポートをインポートし、ビジネス要件に応じてカスタマイズできます。 ストック レポートには、デフォルトのグリッド ビューが 1 つあります。 一部のストック レポートには、グラフ ビューもあります。

レポート作成者のユーザの役割を持っているユーザは、[レポート（Reports）] ドロワをクリックして、[利用可能なレポート（Available Reports）] ページを開くことができます。

（注） レポート インターフェイスでのすべての操作は、レポートとカテゴリに対するユーザの役割とオブジェクト権限に基づきます。

Report Manager

Unified Intelligence Center Report Manager を使用して、レポートの場所とレポートが存在するフォルダの階層を表示します。 次を実行できます。

- 新しいフォルダとサブフォルダ（ユーザ インターフェイスではカテゴリとサブカテゴリと呼ばれる）を作成してレポートを整理できます。
- 中に保存されているすべてのレポートごと、フォルダ全体をエクスポートすることもできます。

表 *1*：*Report Manager* タスク

操作	説明（**Description**）
レベル処理をレポートします。	
実行（Run）	レポートを実行します。
スケジュール（Schedule）	[レポートスケジューラ（Report Scheduler）] ページに誘導して、レポートをスケジュールしたり、後でまたは定期的に実行したりします（レポートのスケジュールの作成, （78 ページ））。

操作	説明（Description）
編集（Edit）	レポート・エディタが表示されます。 レポートエディタの詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.htmlで『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide*』を参照してください。
名前を付けて保存（Save As）	別の名前を付けて、レポートのコピーを保存します。 （注） レポート ユーザは、Cisco Unified Intelligence Center で [レポート（Reports）] カテゴリの下のサブカテゴリを作成する権限をデフォルトで持っていません。 権限を取得するには、管理者に連絡してください。 （注） レポートを保存する場合は、レポートの説明にカッコ（(）、かぎカッコ（>）、スラッシュ（/）、疑問符（?）などの特殊文字や、JavaScript などの実行可能スクリプトを含めないでください。 先頭に二重引用符（"）または単一引用符（'）を付けないでください。
ビューの編集（Edit Views）	使用可能なビューを表示します。 新規ビューの作成または既存のビューの編集が行えます。 （注） 書き込み権限を持っている場合にのみ、ビューの作成または編集ができます。 ビューの編集方法については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.htmlで『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide*』を参照してください。
エクスポート（Export）	レポートをコンピュータにエクスポートします。これにはオンライン ヘルプやローカリゼーションファイルも含まれます。 この機能は、実験システムから実稼働システムなど、レポートを別の Intelligence Center System にエクスポートする必要がある場合に便利です。 書き込み権限を持つレポート作成者は、カスタム レポートをエクスポートできます。 （注） フォルダをエクスポートする場合は、フォルダ内のすべてのレポートがエクスポートされます。 ストック レポートはエクスポートできません。
削除（Delete）	フォルダまたはレポートを削除します。 （注） ストック フォルダまたはストック レポートは削除できません。
サブカテゴリ レベルの操作	

操作	説明（Description）
サブカテゴリの作成（Create Sub-category）	サブ フォルダを作成します。 （注） ルート レベル フォルダにも適用されます。
削除（Delete）	フォルダまたはレポートを削除します。 （注） ストック フォルダまたはストック レポートは削除できません。
名前の変更（Rename）	フォルダまたはレポートの名前を変更します。 （注） ストック フォルダまたはストック レポートの名前は変更できません。 （注） 適用対象ルート レベルのフォルダまたは。
レポートの作成（Create Report）	選択したフォルダで新規レポートを作成します。 ストック レポートとは、シスコがサポートするレポートです。ストック レポートはコピーして、そのコピーしたバージョンを編集することができます。 詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.htmlで『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide*』を参照してください。 （注） 適用対象ルート レベルのフォルダまたは。
権限（Permissions）	セットは、フォルダに対する書き込み権限および実行します。 権限の詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.htmlで『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide*』を参照してください。
エクスポート（Export）	フォルダまたはレポートをコンピュータにエクスポートします。 エクスポートの詳細については、 http://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.htmlで『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide*』の「Export reports, report definitions, and categories」の項を参照してください。 書き込み権限を持つレポート作成者は、カスタム レポートをエクスポートできます。 （注） フォルダをエクスポートする場合は、フォルダ内のすべてのレポートがエクスポートされます。

操作	説明（**Description**）
レポートのインポート（Import Report）	既存の Unified Intelligence Center レポートをインポートし、Unified Intelligence Center のこのインスタンスに保存します。 権限の詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.html で『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide*』を参照してください。 （注） 適用されるすべてのフォルダ・レベル（ルート、およびサブカテゴリ レポート）。
更新（Refresh）	Report Manager を更新します。 （注） 適用されるすべてのフォルダ・レベル（ルート、およびサブカテゴリ レポート）。

レポートの実行

手順

ステップ 1 [レポート（Reports）] タブでは、実行するレポートを選択します。

ステップ 2 レポートのフィルタを選択します。

（注） レポート デザイナが [レポート エディタ（Report Editor）] ページでフィルタ ダイアログをバイパスするように選択した場合は、レポートが生成されます。 レポート デザイナがフィルタ ダイアログをバイパスするように選択しなかった場合は、表示するレポートを選択すると、そのレポートの [フィルタ（Filters）] ページが開きます。

ステップ 3 [実行（Run）] をクリックします。

生成されたレポートがレポート ビューアに表示されます。 レポート ビューア，（25 ページ）を参照してください。

レポート ビューア

レポートを実行すると、そのレポートは [レポートビューア（Report Viewer）] に表示されます。グリッド、グラフ、またはゲージのうち、レポートのどのビュー（データのプレゼンテーション）を選択したかにより、そのコンテンツは異なります。 このページでレポート [ビュー（view）] を変更できます。

レポートには、履歴およびリアルタイム レポート（SQL ベースのレポート）とライブ データ レポートの 2 種類があります。

履歴およびリアルタイム レポート

Unified Intelligence Center 履歴およびリアルタイム レポートを使用すれば、次の操作を実行できます。

- レポート内のデータへのフィルタ適用
- グリッドからグラフまたは円グラフへのレポート ビューの変更

（注） 現在、レポートに使用できるビューからのみ選択することができます。

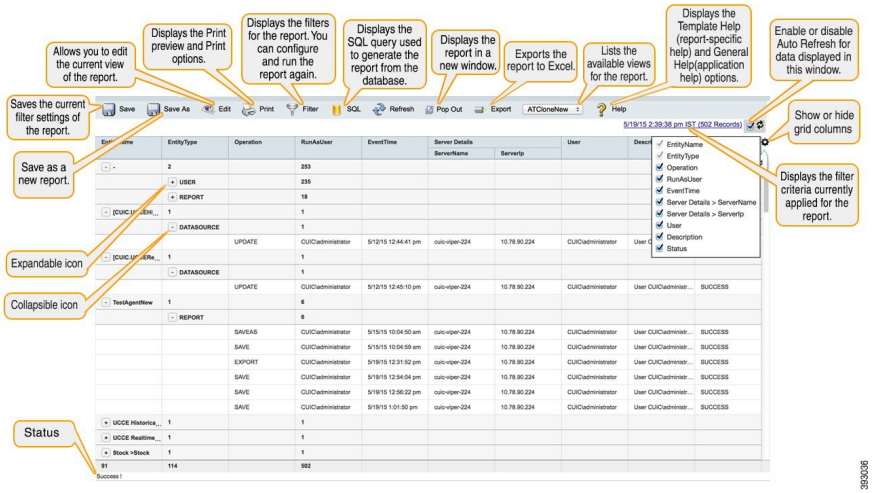
- 現在のビューの編集

（注） 現在のビューを編集したり、レポート用の新しいビューを作成したりするには、http://www.cisco.com/c/en/us/support/customer-collaboration/unified-intelligence-center/tsd-products-support-series-home.html で『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide*』を参照してください。

- レポートの更新
- レポートの印刷
- レポートのエクスポート
- レポートの生成に使用された SQL クエリーの表示
- レポートのヘルプの表示
- 動的フィールドの選択、列のサイズ変更、並べ替え、グループ データの展開と折りたたみ（これらの設定はレポートの呼び出しを越えて保存されません）。

次の図に、履歴およびリアルタイム レポートの例を示します。

図 *2*：履歴およびリアルタイム レポート



ライブ データ レポート

ライブ データ レポートはライブ データ データ ソースからの非同期イベント ストリームに基づいており、リアルタイムで更新されます。

Unified Intelligence Center ライブ データ レポートを使用すれば、次の操作を実行できます。

- 同じレポートを複数のグリッド ビューで表示できます。 列のサイズを変更することもできます。

（注） ライブ データ レポートでは、グリッド ビューのみがサポートされます。

- 現在のビューの編集
- [自動更新（Auto-Refresh）]：[自動更新（Auto-Refresh）]チェックボックスがオンになっている場合は、更新が利用可能になるとすぐに、レポート内のデータが更新されます。 このチェックボックスがオフになっている場合にレポートで新しいデータが利用可能になると、“利用可能な新しい更新があります（New Updates Available）”メッセージが表示されます。 デフォルトでは、すべてのレポートでこのチェックボックスはオンです。
- [しきい値のみ表示]：[しきい値のみ表示] チェックボックスがオンの場合は、しきい値と一致する行だけがレポートに表示されます。 デフォルトでは、すべてのレポートでこのチェックボックスはオフになっています。
- [ポップアウト（Pop Out）]：レポートが新しいブラウザで開きます。 ポップアウトに、[自動更新] オプションと [しきい値のみ表示] オプションが表示されます。

（注） [自動更新] オプションおよび [しきい値のみ表示] オプションについては、デフォルト設定が維持されます。

- 歯車アイコンを使用して、グリッドに列を追加または削除することができます。

図 *3*：ライブ データ レポート

（注） ライブ データ レポートの実行中は、システム時間に変更があってもそれは考慮されません。サーバまたはクライアントが変更または調整された場合は、[期間（Duration）] フィールドの値が正確に表示されるようにレポートを更新する必要があります。

夏時間（DST）への変更時にアクティブなライブ データ レポートでは、[期間（Duration）] フィールドに正しい値が表示されません。 DST への変更時には、アクティブなレポートを更新する必要があります。

ストック レポート

シスコでは、必要に応じて、新しい機能のテンプレートとして使用するための新しいストック レポートを提供しています。 これらのレポートは Cisco.com からダウンロードできます。

すべてのレポートが左ペインの [レポート（Report）] ドロワーに表示されます。

レポートの作成または編集の詳細については、レポートの作成または編集，（29 ページ）を参照してください。

レポートの作成または編集

レポート インターフェイスでのすべての操作は、レポートとカテゴリに対するユーザの役割とオブジェクト権限に基づきます。 詳細については、ユーザ権限の管理, （70 ページ）を参照してください。

次の手順では、新しいレポートの作成方法と既存のレポートの編集方法について説明します。

手順

ステップ 1 左ペインで、 [レポート（Reports）] タブをクリックします。

ステップ 2 レポートを作成するフォルダに移動します。
サブフォルダを作成するには、該当するフォルダに移動して、そのフォルダを右クリックし、[サブカテゴリの作成（Create Sub-category）] を選択します。

ステップ 3 レポートを作成するフォルダを右クリックして、[レポートの作成（Create Report）] を選択します。
（注）

既存のレポートを編集するには、レポートに移動して、そのレポートを右クリックし、[編集（Edit）] を選択します。

ステップ 4 [レポートの作成（Create Report）] ウィンドウで、[名前（Name）] フィールドにレポートの名前を入力します。
（注） レポートの名前は、Unified Intelligence Center に固有である必要があります。

ステップ 5 [説明（Description）] フィールドに、レポートの簡単な説明を入力します。

ステップ 6 [レポート定義（Report Definition）] セクションで該当するレポート定義を選択します。 矢印を使用してフォルダを展開します。

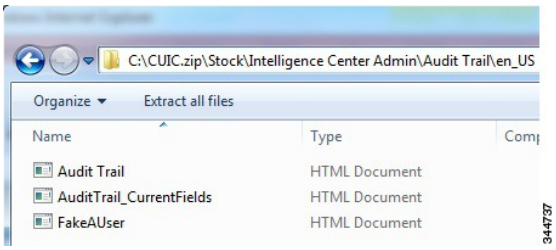
ステップ 7 [権限（Permissions）] セクションで適切な権限を割り当てます。

ステップ 8 [OK] をクリックします。
レポートのヘルプ ページを設定するには、レポートのオンライン ヘルプの設定, （31 ページ）を参照してください。

レポートのインポート

既存のレポートがある場合は、そのレポートと関連ヘルプファイルを Unified Intelligence Center にインポートすることができます。 インポートする前に、レポートを ZIP 形式に圧縮する必要があります。 レポートおよびヘルプ コンテンツを格納する形式を以下に示します。

図 *4*：レポート *ZIP* ファイルのディレクトリ構造



各レポートのヘルプ フォルダのサイズは 3 MB に制限されています。 サイズがこの制限を超えると、システムはヘルプコンテンツをロードしません。インポートできるのは、レポート、レポート定義、値リスト、ビュー、レポート エディタ値、しきい値、ドリルダウン、権限、およびテンプレート ヘルプです。

（注） レポート フィルタとコレクションはインポートできません。

レポートをインポートするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左のペインの [レポート（Reports）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 レポートをインポートするフォルダに移動します。

（注） サブフォルダを作成するには、適切なフォルダに移動し、フォルダを右クリックして、[サブカテゴリの作成] を選択します。

（注） Cisco.com からストック レポートのバンドルをインポートする場合は、[レポート（Reports）] フォルダのレベルに配置する必要があります。

ステップ 3 [レポートのインポート] をクリックします。

ステップ 4 [ファイル名（XMLまたはZIPファイル）] フィールドで、[参照] をクリックします。

ステップ 5 XML または圧縮レポート ファイルを参照して選択し、[開く] をクリックします。

ステップ 6 [レポート定義のデータソース] ドロップダウン リストから、レポート定義で使用されるデータソースを選択します。

（注） このフィールドは、インポートするレポートのレポート定義が現在 Unified Intelligence Center で定義されていない場合にのみ表示されます。

ステップ 7 [値リストのデータソース] ドロップダウン リストから、レポート定義内で定義されている値リストで使用されるデータ ソースを選択します。

（注） 値リストのデータ ソースがレポート定義と同じデータ ソースを使用しない場合のみ、そのデータ ソースを選択する必要があります。 リアルタイム ストリーミングのレポート定義については、値リストのデータ ソース選択が必須です。

ステップ 8 [保存先] フィールドで、インポートしたレポートを保存するフォルダを参照します。 矢印キーを使用してフォルダを展開します。

ステップ 9 [インポート（Import）] をクリックします。

レポートのオンライン ヘルプの設定

それぞれの Unified Intelligence Center レポートに個別のヘルプ ページを付けることができます。 ヘルプ ページは個別にホストしてレポートでそれを指すようにすることも、作成してレポートと一緒にアップロードすることもできます。

ヘルプ ページをアップロードする場合は、HTML または ZIP 形式にする必要があります。 ZIP ファイルには複数の HTML ファイルを含めることができます。 HTML ページのコンテンツは画像を含むリッチ テキストにすることができます。 ビデオなどのインタラクティブ コンテンツは現在サポートされていません。

レポートのヘルプ ページを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左のペインの [レポート] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 [レポート（Reports）] タブで、オンライン ヘルプを割り当てるレポートを右クリックして、[編集（Edit）] を選択します。

ステップ 3 [オンラインヘルプ（Online Help）] セクションで、[ヘルプファイルの選択（Select Help File）] を選択します。

（注） ヘルプ コンテンツが個別にホストされている場合は、[URL（URL）] を選択して、ヘルプ コンテンツがホストされている場所を指定し、ステップ 6 に進むことができます。

ステップ 4 [ヘルプファイルをアップロード（Upload Help File）] をクリックします。

ステップ 5 [アップロードするファイルの選択（Choose File to Upload）] ウィンドウで、HTML または ZIP ファイルを選択して、[開く（Open）] をクリックし、必要なファイルを選択します。

ステップ 6 [保存（Save）] をクリックします。

レポート、レポート定義、およびカテゴリのエクスポート

Unified Intelligence Center 内のカスタム レポート、レポート定義、またはレポートのカテゴリをエクスポートすることができます。 レポートとレポートのカテゴリは、zip 形式でエクスポートされ、レポート定義は単一の XML ファイルとしてエクスポートされます。

カテゴリをエクスポートすると、そのカテゴリのレポートが zip ファイルとしてグループ化されます。 グループ化は、レポート定義と値リストによって使用されるデータ ソースに基づいて行われます。

（注） カスタマイズされたレポートの場合は、レポートをエクスポートする前に、値リストとレポート定義のバージョン番号を更新する必要があります。 そうしなかった場合は、エクスポートで既存のデフォルト レポートが上書きされません。

カテゴリをエクスポートするには、カテゴリを右クリックし、[エクスポート（Export）]をクリックします。 必要に応じて、zip ファイルを保存するか、開きます。

（注） それぞれが別々のデータ ソースを指している複数の値リストを含むレポート定義はエクスポートされません。

値リストを含むレポート定義をエクスポートするには、レポート定義内のすべての値リストが同じデータ ソースを指していることを確認してください。

同じことがカテゴリにも当てはまります。 カテゴリのエクスポートでは、カテゴリ内のすべての値リストが同じデータ ソースを指していることを確認してください。

レポートをエクスポートすると、次の項目がエクスポートされます。

- レポート
- レポート定義
- 値リスト
- ビュー
- レポート エディタで定義された初期設定
- しきい値
- 権限
- オンライン ヘルプ（バンドルされていない場合は、zip ファイル形式で空のフォルダが作成されます）

次の項目は、レポートと一緒にエクスポートされません。

- レポート フィルタ
- コレクション

レポートまたはレポート定義をエクスポートするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左ペインで、[レポート（Reports）] または [レポート定義（Report Definitions）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 エクスポートするレポートまたはレポート定義を参照します。

ステップ 3 レポートまたはレポート定義を右クリックして、[エクスポート（Export）] を選択します。

ステップ 4 必要に応じてレポートまたはレポート定義の名前を変更します。ただし、拡張子は変更しないでください（レポート：.zip とレポート定義：XML）。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

ステップ 6 [ファイルのダウンロード（File Download）] ウィンドウで、[保存（Save）] をクリックして、レポートまたはレポート定義をエクスポートする場所を指定します。

ステップ 7 レポートまたはレポート定義を保存するフォルダを参照します。

ステップ 8 [保存（Save）] をクリックします。

レポート パーマリンクの表示

レポートへのパーマリンクはレポートの作成時に作成されます。 レポートへのパーマリンクを取得するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左ペインで、 [レポート（Reports）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 特定のレポートに移動します。

ステップ 3 レポートを右クリックし、[ビューの編集（Edit Views）] を選択します。

ステップ 4 ビューを選択し、[リンク（Links）] をクリックします。

（注）
- 認証なしでパーマリンクにアクセスできるようにするには、[未認証アクセスを有効にする（Enable Unauthenticated Access）] チェックボックスをオンにします。
- ハイパーリンクは、このチェックボックスがオンになってるかどうかに関係なく、初めてアクセスしたときに認証が要求されます。
- ライブ データ レポートでは、[未認証アクセスを有効にする（Enable Unauthenticated Access）] チェックボックスは使用できません。

ステップ 5 必要なハイパーリンクを選択します。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

フィルタのタイプ

基本フィルタと詳細フィルタの 2 つのフィルタ タイプから選択することができます。

基本的なフィルタ

[基本フィルタ（Basic Filters）] タブを使用すれば、レポート用に定義されたキー基準フィールドに基づいてレポート データをフィルタ処理することができます。 日付範囲フィルタ、値リストまたはコレクション フィルタの設定の詳細については、以下のページを参照してください。

- 日付範囲フィルタの設定, （34 ページ）
- 値リストまたはコレクション フィルタの設定, （36 ページ）

詳細フィルタ

[詳細フィルタ] : [詳細フィルタ] タブでは、レポート内で利用できるすべてのフィールドのレポート データにフィルタを適用できます。 プレーン テキストまたは 10 進数フィールドのフィルタを設定する方法の詳細については、詳細フィルタの設定, （38 ページ）を参照してください。

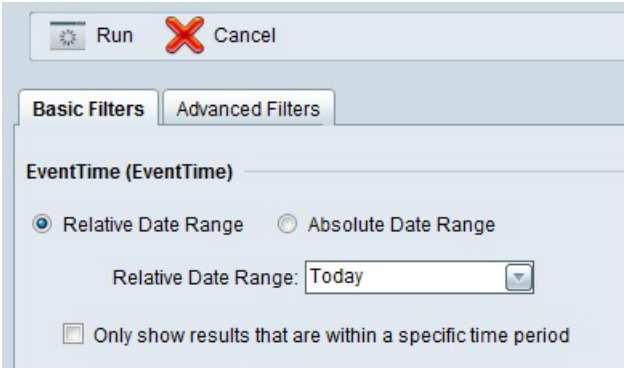
（注） 個別のニーズを満たすように新しいフィルタのフィルタ基準を適用する方法の詳細については、 次の URL にある『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide*』を参照してください。 http://www.cisco.com/c/en/us/support/customer-collaboration/unified-intelligence-center/products-user-guide-list.html

日付範囲フィルタの設定

日付範囲フィルタを設定するには、[基本フィルタ（Basic Filters）] タブを使用します。

（注） 日付範囲フィルタは、リアルタイムおよびライブ データのレポートには適用されません。

図 *5*：日付範囲フィルタ



手順

ステップ 1 [フィルタ（Filter）] ページを表示するには、レポートをクリックします。

ステップ 2 日付範囲のタイプを選択します。 次のオプションを使用できます。

[相対的な日付範囲（Relative Date Rage）]：

- ここで使用可能なオプションは事前定義されています。 [相対的な日付範囲（Relative Date Range）] ドロップダウン メニューから、[今日（Today）]、[前日（Yesterday）]、[今週（This Week）]、[前週（Last Week）]、[今月（This Month）]、[前月（Last Month）]、[年度累計（Year to Date）]、または [前年（Last Year）] のいずれかを選択します。
- [特定時間内の結果のみを表示（Only show results that are within a specific time period）] チェックボックスをオンにして、日付を選択または選択解除します。 デフォルトでは、すべての曜日が選択されます。 このチェックボックスが表示されるのは、[相対的な日付範囲（Relative Date Range）] ドロップダウン メニューから、[今週（This Week）]、[前週（Last Week）]、[今月（This Month）]、[前月（Last Month）]、[年度累計（Year to Date）]、または [前年（Last Year）] のいずれかを選択した場合だけです。 このボックスをオンにしない場合、レポートには、範囲の初日の午前 12 時 00 分から範囲の最終日の午後 11 時 59 分までのすべての値が表示されます。

[絶対的な日付範囲（Absolute Date Range）]：

- カレンダー アイコンをクリックして、[開始日（Start Date）] と [終了日（End Date）] を選択します。
- [特定時間内の結果のみを表示（Only show results that are within a specific time period）] チェックボックスをオンにして、開始時間と終了時間を入力します。 このボックスをオンにしない場合、レポートには、範囲の初日の午前 12 時 00 分から範囲の最終日の午後 11 時 59 分までのすべての値が表示されます。

- [週の特定曜日の結果のみを表示（Only show results that are on certain days of the week）] チェックボックスをオンにして、曜日を選択/選択解除します。 デフォルトでは、すべての曜日が選択されます。
- 特定の時間内で利用できるデータを表示する場合は、[特定時間内の結果のみを表示] チェックボックスをオンにします。 この時間範囲が上で選択した各日付に適用されます。 デフォルトの時間間隔は、午前 12:00 から午後 11:59 です。

（注） 特定の曜日を選択するオプションは時間範囲が 2 日以上に及ぶ場合にのみ使用できます。

またこのオプションは、匿名ブロック クエリー タイプ ベースのレポートにも使用できません。 クエリー タイプの詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.html で『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide*』を参照してください。

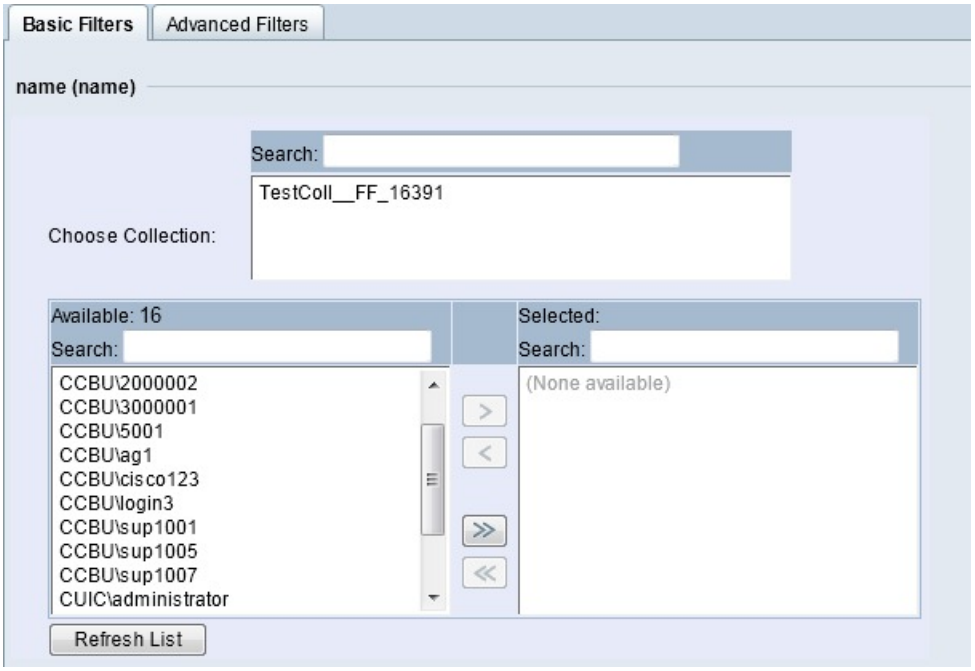
ステップ 3 [実行（Run）]をクリックします。

値リストまたはコレクション フィルタの設定

日付範囲フィルタ値リストまたはコレクションを設定するには、[基本フィルタ（Basic Filters）] タブを使用します。 コレクションとは、事前設定された値のグループです。

（注） ユーザがキー基準フィールドに対する権限を持っている場合にのみ、[フィルタ（Filter）]ページの [リストの更新（Refresh List）] ボタンをクリックします。

図 *6*：コレクション フィルタ



手順

ステップ 1 [フィルタ（Filter）] ページを表示するには、レポートをクリックします。

ステップ 2 [コレクションの選択（Choose Collection）] または [値リストの選択（Choose Value List）] フィールドから、コレクションまたは値リストを選択します。

ヒント [検索（Search）] フィールドを使用して、値またはコレクションを検索します。

コレクションまたは値リストの項目が、[選択可能] リストに表示されます。

ステップ 3 [選択可能] リストから項目を選択し、[選択済み] リストに移動します。

ステップ 4 検索を繰り返して、選択した項目のリストに追加できます。 複数のコレクションや値を選択することもできます。

ステップ 5 [実行（Run）]をクリックします。

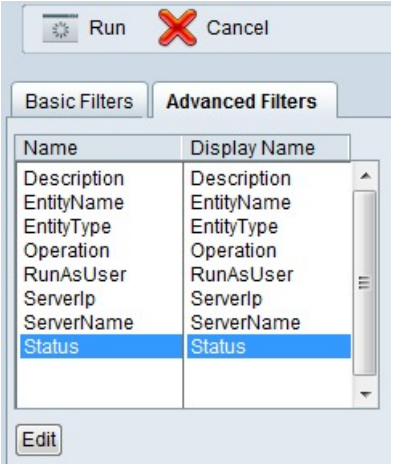
詳細フィルタの設定

[詳細フィルタ（Advanced Filters）] タブを使用し、レポート内の任意のフィールドをフィルタできます。 フィールドタイプ（日付、数字、または文字列）に基づいて、使用できる演算子は異なります。 たとえば、キュー内の 2 分を超えるコールをフィルタしたり、または保留状態のすべてのエージェントをフィルタしたりして、あまり重要でない情報を表示しないようにできます。

（注）

- 詳細フィルタを使用できるのは、SQL クエリーに基づくレポートのみです。
- 詳細フィルタは、フィールド タイプに基づいてプレーン テキストまたは 10 進数フィールドをフィルタ処理するために使用できます。

図 7 : 詳細フィルタ



手順

ステップ 1 レポートを生成し、[フィルタ（Filter）] ページを表示するには [フィルタ（Filter）] をクリックします。 詳細フィルタを表示するには、[詳細フィルタ] タブを選択します。

ステップ 2 フィールドを選択します。

ステップ 3 [編集] をクリックして、任意の値またはフィルタ済みの値を示します。

ステップ 4 [次の条件でフィルタ（Filter according to the following criteria）] を選択します。
フィルタ条件はフィールドのタイプ（日付、10 進数、値リスト、文字列、ブール型）によって異なります。

- [日付（Date）] の場合は、[編集（Edit）] をクリックして任意の値を指定するか、[相対的な日付範囲（Relative Date Range）] または [絶対的な日付範囲（Absolute Date Range）] を選択

してフィルタします。 相対的および絶対的な日付範囲の両方で、特定の期間、および特定の曜日を示すことができます。

- [10進数（DECIMAL）] の場合、[編集（Edit）] をクリックして任意の値を指定するか、[次の値と等しい（Equal To）]、[次の値と等しくない（Not Equal To）]、[次の値より小さい（Less Than）]、[次の値以下（Less Than or Equal To）]、または [次の値より大きい（Greater Than）] から演算子を選択して、値を入力します。たとえば、演算子 [次の値より大きい（Greater Than）] を選択して、値に「16.5」を入力します。
- [文字列（String）] では、[編集（Edit）] をクリックしていずれかの値を指定するか、または [次の値と等しい（Equal To）]、[次の値と等しくない（Not Equal To）]、または [パターン一致（Matches Pattern）] から演算子を選択して文字列の値を入力します。たとえば、演算子 [パターン一致（Matches Pattern）] で値を Team Green にします。
  [演算子（Operator）] として [パターン（Pattern）] を選択した場合は、文字列フィールドに一致する SQL パターンを指定する必要があります。 文字列の先頭と末尾に、ワイルド カード文字 % が自動的に付加されます。 文字列の間で SQL のワイルド カード パターンを使用することもできます。
- [ブール型（BOOLEAN）] の場合は、[編集（Edit）] をクリックして任意の値を指定するか、演算子を選択し、[はい（True）] または [いいえ（False）] を選択してフィルタします。
- 詳細フィルタのフィールドが [値リスト（Value List）]の場合は、 [編集（Edit）]をクリックしていずれかの値を指定するか、リスト内の 1 つ、すべて、またはいくつかの項目を [選択済み（Selected）] カラムへ移動してフィルタします。

ステップ 5 [演算子] ドロップダウン リストを使用して、条件を選択します。

（注） [次のパターンと一致] 演算子を選択した場合、いずれかの Microsoft SQL ワイルドカード パターンを使用して、データをフィルタ処理できます。 ワイルドカード文字の % が、データのフィルタ処理に使用されるすべての文字列の先頭と末尾に追加されます。

ステップ 6 [値] フィールドに、フィールド内のデータのフィルタ処理の基準となる値を入力します。

ステップ 7 [実行（Run）] をクリックします。

利用可能なビュー

[利用可能なビュー（Available Views）] は、レポートを右クリックして、[ビューの編集（Edit Views）] を選択したときに表示されます。 このページでは、レポートに現在関連付けられている利用可能なビューと対応する説明が一覧表示され、新しいビューを作成したり、既存のビューを編集したりすることができます。

Cisco Unified Intelligence Center は次の 3 つのビュー タイプをサポートします。

- グリッド
- グラフ
- ゲージ

（注） ビューを削除すると、フィルタを使用して作成されたすべての変数パラメータを含む、そのビューに対して作成されたパーマリンクも削除されます。 Cisco Unified Intelligence Center は、パーマリンク実行エラー「このレポートは削除されました。（This Report was deleted.） このページを閉じるか、キャンセルしてください。（Please Close/Cancel this page.）」を返します。

[ビュー エディタ（Views Editor）] ページでは、次の操作を実行できます。

- グラフ、ビュー、およびグリッドを [作成（Create）] または [編集（Edit）] します。
- [削除（Delete）]：確認を要求してから、ビューを削除します。 すべてのレポート ビューを削除しないでください。 ビューのないレポートは実行できません。
- [更新（Refresh）]：このレポート データセットのビューに対して他のユーザが行った変更を表示するようにページを更新します。
- [リンク（Links）]：[未認証アクセスを有効にする（Enable Unauthenticated Access）] チェックボックスをオンにすると、パーマリンクが設置されたユーザは未認証モードでレポートにアクセスできます。 デフォルトで、[未認証アクセスを有効にする（Enable Unauthenticated Access）] チェックボックスはオフになっています。

  レポートへのパーマリンクを取得するには、レポート パーマリンクの表示，（33 ページ）を参照してください。
- [ヘルプ（Help）]：ページのオンライン ヘルプを開きます。

グリッド ビューの作成

グリッドはデータを行と列の表形式で表します。デフォルトでは、シスコのストック レポートには 1 つの[グリッド ビュー（Grid Viewer）] があります。 ストック レポートに対して追加の [グリッド ビュー（Grid Viewer）] を作成できます。 カスタム レポートの場合は、[レポート定義（Report Definition）] で SQL クエリーからデフォルト グリッドが作成されます。

（注） グループ化はライブ データ レポートではサポートされていません。

以下はグリッド ビューを作成する手順です。

手順

ステップ 1 [レポート] に移動します。

ステップ 2 [レポート] をクリックし、[利用可能なレポート] を表示します。

ステップ 3 [レポート] フォルダを展開します。

ステップ 4 適切なフォルダでレポートを探します。

ステップ 5 レポートを右クリックして、[ビューの編集] を選択します。 レポートのすべてのビューを含む新しいタブが開きます。

ステップ 6 [作成] の下で、ドロップダウン リストから [グリッド] を選択します。 新しいページが開きます。

ステップ 7 [名前] と [フォントサイズ] を指定のフィールドに入力します。

ステップ 8 グリッド ビューの [説明] を入力します。

ステップ 9 [利用可能なフィールド] で、グリッド ビューで必要になるフィールドを選択します。

ステップ 10 [選択] をクリックして、選択したフィールドを [グリッド内における現在のフィールドの順序] ボックスの [グリッドヘッダー] に追加します。 また、次の操作を実行できます。

a) [すべて選択] をクリックして、利用可能なフィールドをすべて [グリッドヘッダー] に追加します。

b) [ヘッダーの追加] をクリックして、新しいフォルダを [グリッドヘッダー] に追加します。

c) [選択項目の削除] をクリックして、[グリッドヘッダー] 内の項目を削除します。

d) レポートをグループ化するには、[グループ化] ボタンをクリックして、新しいページを開きます。

e) [グループ数] に適切な値を指定します。

f) [固有の値を縦方向に整列] で適切な値を選択します。

g) [ソート基準] に対応するドロップダウン リストをクリックし、適切なフィールドを選択します。

h) [OK] をクリックします。 前のウィンドウが開きます。

（注） グループ化の詳細については、グループ化, （45 ページ）を参照してください。

ステップ 11 作成した新しいビューを保存するには、[保存] をクリックします。

ステップ 12 ビューの名前を変更するには、[名前を付けて保存] をクリックします。

ステップ 13 変更を中止して、グリッド エディタを終了するには、[キャンセル] をクリックします。

ゲージ ビューの作成

ゲージには、単一のレポートメトリック（数値）のステータスが表示されます。 これは、複数のメトリックまたは複雑な相互関係を表示することは意図していません。 Unified Intelligence Center のゲージは、機能と外観の両方において、自動車の速度計に類似しています。 Unified Intelligence

Center で設計するゲージは、可動の針を備えた半円のグラフィックです。 ゲージには、値が正常範囲内である視覚的なインジケータが表示されます。

（注） ライブ データ レポートは、ゲージ ビューをサポートしていません。

（注） フィールドにフッターがない場合、レポートを実行したときに、フッター値がヌルである、または数字ではないことを表すエラーが表示されます。 フィールドに対してフッターを設定する必要があります。

次に、ゲージ ビューを作成する手順について説明します。

手順

ステップ 1 [レポート] に移動します。

ステップ 2 [レポート] をクリックし、[利用可能なレポート] を表示します。

ステップ 3 [レポート] フォルダを展開します。

ステップ 4 適切なフォルダでレポートを探します。

ステップ 5 レポートを右クリックして、[ビューの編集] を選択します。 レポートのすべてのビューを含む新しいタブが開きます。

ステップ 6 [作成] の下で、ドロップダウン リストから [ゲージ] を選択します。 新しいページが開きます。

ステップ 7 [フィールド] に対応するドロップダウンをクリックして、適切なフィールドを選択します。

ステップ 8 [名前]、[説明]、[範囲]、および [目盛りの数] のフィールドに入力します。

ステップ 9 適切な [目盛りのオプション] を選択します。

ステップ 10 [しきい値] に、各しきい値のレベルに適した [値] を入力します。

ステップ 11 指定のレベルに対応したチェックボックスをオンにして、しきい値レベルを設定します。

ステップ 12 [レベル] に対応したチェックボックスをオンにして、4 つのしきい値レベルすべてを設定します。

（注） 事前に定義されている 4 つのしきい値レベルは、[警告] 、[マイナー] 、[メジャー] 、および[クリティカル]です。 チェックボックスを使用してしきい値レベルを選択すると、ゲージのグラフィカル プレビューが表示されます。

ステップ 13 名前を変更してゲージ ビューを保存するには、[名前を付けて保存] をクリックします。

ステップ 14 ゲージ ビューを保存して閉じるには、[保存して閉じる] をクリックします。

ステップ 15 新しいゲージ ビューを保存するには、[保存] をクリックします。

ステップ 16 ページの値をリセットするには、[更新] をクリックします。

ステップ 17 変更を中止して、ゲージ ビュー エディタを終了するには、[キャンセル] をクリックします。

グラフ ビューの作成

Cisco Unified Intelligence Center には、円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフの 3 種類のグラフが用意されています。

- [円] : 円グラフは、量を全体に対する割合として表します。 円はデータの 100% を表し、各量はそれぞれに応じた扇形で表します。 円グラフは、10 進数フィールドまたは数値フィールドのみを対象とします。 1 つの円グラフでは 50 個を超える扇形は対応できません。 データ セットおよびグラフ エディタ選択で 50 個を超える扇形を持つ円グラフが作成された場合は、エラーが表示されます。
- [棒] : 棒グラフは、非連続性のイベントを表し、傾向ではなくイベント間の差異を示します。 棒グラフの向きは、垂直にも水平にもすることができます。また、垂直方向に積み上げることも、横に並べることも可能です。
- [折れ線グラフ] : 折れ線グラフは、連続する数量の共通の目盛りに対する経時的な変化を表します。 これは傾向を表すのに適しています。

（注） ライブ データ レポートは、グラフ ビューをサポートしていません。

（注） キリル文字では、垂直方向のグラフの場合、[横軸] フィールドのデータ ラベルがまったく表示されないか、文字化けすることがあります。 これは既知の根本的な制限です。 キリル文字の場合は、水平方向のグラフを表示してください。

次に、グラフ ビューを作成する手順について説明します。

手順

ステップ 1 [レポート] に移動します。

ステップ 2 [レポート] をクリックし、[利用可能なレポート] を表示します。

ステップ 3 [レポート] フォルダを展開します。

ステップ 4 適切なフォルダでレポートを探します。

ステップ 5 レポートを右クリックして、[ビューの編集] を選択します。 レポートのすべてのビューを含む新しいタブが開きます。

ステップ 6 [作成] の下で、ドロップダウン リストから [グラフ] を選択します。 [全般設定] ページが開きます。

ステップ 7 [グラフの種類] に対応するドロップダウン リストをクリックし、適切なフィールドを選択します。

ステップ 8 [グラフ名] フィールドと [グラフの説明] フィールドに入力します。

ステップ 9 必要に応じ、以下に相当するチェック ボックスをチェックします。

- [ユーザ補助モード]：このボックスをオンにすると、グラフの色に模様（ストライプと点）を追加し、区別し易くできます。
- [動的なデータセット]：折れ線グラフや棒グラフでこのボックスをオンにすると、データが要約形式に変換されます。

  （注） 円グラフでは使用できません。

  折れ線グラフと棒グラフでは、[動的なデータセット（Dynamic Dataset）] または [レポート フッターの使用（Use Report Footer）] を使用しますが、両方は使用しません。
- [レポートフッターの使用]：グラフ内で繰り返し使用されるデータをフィールドのフッターでグループにまとめたり折りたたんだりする場合に、このボックスをオンにします。

  （注） 折れ線グラフと棒グラフでは、[動的なデータセット（Dynamic Dataset）] または [レポート フッターの使用（Use Report Footer）] を使用しますが、両方は使用しません。

ステップ 10 [凡例の位置] の横にあるドロップダウン リスト ボックスをクリックして、[右] または [下] を選択します。

ステップ 11 [凡例ラベルの最大長] の値を指定します。

ステップ 12 [データの変更による効果] で、[タイプ] の横にあるドロップダウン リスト ボックスをクリックして、適切なフィールドを選択します。

ステップ 13 [次へ] をクリックして、[系列の設定] ページを開きます。

ステップ 14 [系列] で、[データフィールド] と [ラベルフィールド] の横にあるドロップダウン リスト ボックスをクリックして、適切なフィールドを選択します。

（注） このオプションは円グラフ系列のみに適用できます。

ステップ 15 [ラベル] で、[ラベルの位置] と [ラベルの形式] の横にあるドロップダウン リスト ボックスをクリックして、適切なフィールドを選択します。

（注） このオプションは円グラフ系列のみに適用できます。

（注） 円グラフ系列では、ステップ 16 ～ 20 をスキップしてください。 これらの手順は、折れ線グラフ系列と棒グラフ系列のみで実行します。

ステップ 16 [次へ] をクリックして、[棒グラフの系列の設定] ページを開きます。

ステップ 17 [軸: タイプとフィールド] を選択します。 このパネルは、[全般設定（General Settings）] ページで縦方向を選択したときに、右側に表示されます。 これは、横方向を選択したときに左側に表示されます。

ステップ 18 [次へ（Next）] をクリックして、[棒グラフ系列の設定（系列の説明/凡例ラベル）（Column Chart Series Settings Series Descriptions/Legend Labels）] ページを開きます。

ステップ 19 [横軸タイプ] および [縦軸タイプ] に情報を入力します。 軸タイプのオプションは、フィールドのデータ型によって決まります。

ステップ 20 [次へ] をクリックして、[サマリー] ページを開きます。

ステップ 21 [保存してプレビュー] ボタンをクリックして、グラフのプレビューを表示します。

ステップ 22 [保存して終了] をクリックして、グラフを保存し、ページを終了します。

ステップ 23 変更を中止して、**グラフ エディタ**を終了するには、[キャンセル] をクリックします。

グループ化

（注） ライブ データ レポートではグループ化がサポートされていません。

レポート グループをフォーマットする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 左のペインの [レポート] ドロワーを選択します。

ステップ 2 グループ化のフォーマットを行うレポートを右クリップし、[ビューの編集] を選択します。

ステップ 3 グループ化のフォーマットを行うビューを選択し、[編集] をクリックします。

ステップ 4 [グループ化] ボタンをクリックすると、新規ページが開きます。

ステップ 5 [グループ数] に適切な値を指定します。 レポート内の 0、1、2、または 3 個のグループを選択できます。

ステップ 6 [グループ化基準] で、ドロップダウン リストから値を選択します。 レポートデータは、この値によってグループ化されます。
ドロップダウン リストから日付または日時の値を選択する場合、次のいずれかのオプションを選択します。

- [なし]：レポート データは、日、週、または月単位ではなく、値によってグループ化されます。
- [毎日]：レポートは、日単位でグループ化されます。
- [毎週]：レポートは、週単位でグループ化されます。

- [毎月]：レポートは、月単位でグループ化されます。

ステップ 7 [サマリーの表示（Show Summary）]チェックボックスをオンにし、グループ化のためのレポートに概要行を含めます。たとえば、エージェントチームごとグループ化し、[サマリーの表示（Show Summary）] チェックボックスをオンにすると、各チームの概要データの行が表示されます。

（注）
- [サマリーのみ表示（Show Summary Only）] チェックボックスをオンにすると、[概要の表示（Show Summary）] チェックボックスは使用不可になります。
- グループ化について [サマリーのみ表示（Show Summary only）] チェックボックスをオンにすると、レポートは、[グループ化基準（Grouped By）] に定義された列別にのみ並べ替えることができます。
- レポートに表示されるサマリーは複数ページにまたがるため、下のナビゲーション矢印を使用してページ間を移動します。
- 要約のみを表示し、すべてのフィールドに利用できるようにするには、[サマリーのみ表示（Show Summary Only）] チェックボックスをオンにします。
- しきい値はグループ化されたフィールドおよびサマリー行に表示されません。

ステップ 8 [ソート基準]で、ドロップダウンリストから値を選択します。レポートデータは、この値によってソートされます。

ステップ 9 [OK] をクリックします。

（注） グループ化されたフィールドからドリルダウンを実行することはできません。フィールドがグループ化されているかどうかを判別するには、次の手順を実行します。

- レポートの [グリッドエディタ（Grid Editor）] を開きます。[グループ化（Grouping）] をクリックします。
- [グループ化（Grouping）] ダイアログボックスから、フィールドがいずれかの [グループ化基準（Grouped By）] フィールドに表示されていないかを調べます。

フィールドのしきい値インジケータの設定

フィールド値が特定の値を超えるまたは下回る場合に、フィールドに表示されるしきい値インジケータを設定できます。しきい値インジケータは、グリッドタイプおよびゲージタイプのビューにのみ設定できます。

ゲージビューのしきい値を設定する方法は、ゲージビューの作成手順に記載されています。ゲージビュー作成の詳細については、ゲージビューの作成，（41 ページ）を参照してください。

グリッド ビュー作成の詳細については、グリッド ビューの作成, （40 ページ）を参照してください。 グリッドビューのフィールドにしきい値インジケータを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左のペインの [レポート] ドロワーを選択します。

ステップ 2 フィールドにしきい値を設定するレポートを右クリップし、[ビューの編集] を選択します。

ステップ 3 フィールドにしきい値を設定するビューを選択し、[編集] をクリックします。

ステップ 4 [グリッド内における現在のフィールドの順序] ボックスで、しきい値を設定するフィールドを右クリックし、[しきい値] を選択します。

ステップ 5 [しきい値] ウィンドウで、[追加] をクリックして新しいしきい値を追加します。

（注）
- フィールドに 30 個よりも多くのしきい値を設定しないことを推奨します。
- 既存のしきい値を編集するには、しきい値を選択し、[編集] をクリックします。

ステップ 6 [タイプ] ドロップダウン リストで、現在のフィールド値に対してしきい値をチェックする条件を選択します。 次に表示されるフィールドに、必要に応じて、値または式を入力します。

（注） 式を使用する場合は、[正規表現] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 しきい値条件に一致する場合に表示されるフィールドのテキストをフォーマットします。 次のオプションを使用します。

a) [太字] : チェックボックスをオンにすると、テキストが太字になります。
b) [テキストの色] : フィールドのテキストの色を選択します。
c) [背景色] : フィールドの背景色を選択します。
d) [代替テキスト] : しきい値条件に一致する場合にフィールドのテキストを文字列で置換するには、新しい文字列を入力します。
e) [画像の場所] : しきい値条件に一致する場合にテキストを画像に置換するには、画像のパスを入力します。 画像の URL またはパスのいずれかを使用できます。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

しきい値の追加と編集

手順

ステップ 1 [レポート（Reports）] ページを開いて、しきい値を設定するレポートを右クリックします。

ステップ 2 [ビューの編集（Edit Views）]を選択します。

ステップ 3 グリッドタイプのビューを選択してから、[編集（Edit）] をクリックします。 [グリッドエディタ（Grid Editor）] で [グリッド ビュー（Grid Viewer）] が開きます。

ステップ 4 [しきい値（Thresholds）] を選択して、[追加（Add）] をクリックします。

（注） フィールドに 30 個を超えるしきい値を設定しないことをお勧めします。

（注） [しきい値（Thresholds）] は、グループ化されたフィールドには表示されません。

ステップ 5 ドロップダウン リストから [タイプ（Type）] を選択します。

ステップ 6 [太字（Bold）] をオンにするか、オフのままにします。

ステップ 7 [テキストの色（Text Color）] をクリックして、カラー パレットを開きます。 いずれかの色をクリックしてテキストの色として選択し、パレットを閉じます。

ステップ 8 [背景色（Background Color）] をクリックして、カラー パレットを開きます。 いずれかの色をクリックしてテキストの色として選択し、パレットを閉じます。

ステップ 9 [代替テキスト（Text Substitute）] フィールドに、しきい値条件が満たされたときに、デフォルトタイプ以外のテキストでフィールド値をマスクする場合にそのテキストを入力します。 たとえば、タイプとして [次の値より小さい（Less Than）] を選択した場合は、Warning などのテキストを入力することができます。

ステップ 10 [代替画像URL（Image Substitute URL）] フィールドに、テキストの代わりにフィールドの値をマスクする画像の URL またはパスを入力します。

ステップ 11 [OK] をクリックします。

第 5 章

データ ソース

- データ ソースの概要，49 ページ
- データ ソース エディタ，49 ページ
- ストリーミング データ ソース，51 ページ
- クエリー ベースのデータ ソースの作成または編集，51 ページ
- データ ソースのノードの切り替え，53 ページ
- データ ソースの削除，53 ページ

データ ソースの概要

データ ソースはデータベースを表します。 各レポーティング サーバには、データベースごとに 1 つのデータ ソースが必要です。このデータ ソースから、レポートにデータが入力されます。

左パネルで [データ ソース（Data Sources）] ドロワーをクリックして、[データ ソース（Data Sources）] ページを開きます。 システム設定管理者の権限を持っているユーザだけが、このドロワーの全機能にアクセスできます。

（注） データ ソース インターフェイスでのすべての操作は、データ ソースに対するユーザの役割とオブジェクト権限に基づきます。

データ ソース エディタ

データ ソースはデータベースを表します。 各レポーティング サーバには、データベースごとに 1 つのデータ ソースが必要です。このデータ ソースから、レポートにデータが入力されます。

左パネルの [データ ソース（Data Sources）] ドロワーをクリックすると、[データ ソース（Data Sources）] ページが開きます （システム設定管理者の権限を持つユーザだけが、本ドロワの全機能にアクセスできます。）

各行の左にあるオプション ボタンをクリックして、その [データ ソース（Data Sources）] を選択し、編集します。

表 2 : *[データ ソース（Data Sources）] ページのフィールド*

フィールド	説明
名前（Name）	[データ ソース（Data Sources）] の名前です。
接続済みノード（Connected Node）	接続済みデータ ソースのステータスを表示します。 緑のチェックマークは、接続されていることを示します。 赤い x は、接続されていないことを示します。 [プライマリ（Primary）] は、プライマリ データ ソースを示します。 [セカンダリ（Secondary）] は、セカンダリ データ ソースを示します。
スタンバイ ノード（Standby Node）	スタンバイ データ ソースのステータスを表示します。 緑のチェックマークは、接続されていることを示します。 赤い x は、接続されていないことを示します。 [プライマリ（Primary）] は、プライマリ データ ソースを示します。 [セカンダリ（Secondary）] は、セカンダリ データ ソースを示します。
タイプ（Type）	データベース タイプ（MS SQL Server、Informix、およびストリーミング）です。
データベース ホスト（Database Host）	データベース サーバの DNS 名または IP アドレスです。 （注） データベース名は HDS 名ではなく、AWDB 名にする必要があります。 AW データベースからのビューを使用して、HDS データベースから情報が取得されます。
データベース名（Database Name）	データベースの名前です。
文字セット（Charset）	データ ソースによって使用される文字セットです。

それぞれのデータ ソースに対して次のアクションを実行できます。

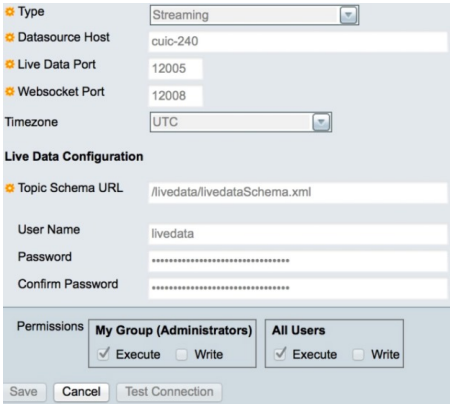
- [作成（Create）] : 新しいデータ ソースを定義するために、フィールドが空白の [データ ソースの作成/編集（Data Source Create/Edit）] ページを開きます （システム設定管理者のユーザのみ使用できます。）
- [編集（Edit）] : 行が選択されているときに有効になります。フィールドの確認または変更を行える [データ ソースの作成/編集（Data Source Create/Edit）] ページが開きます （ほとんどのユーザでは無効になっています。）
- [削除（Delete）] : 行が選択されているときに有効になります。確認用のプロンプトが表示されてから、データ ソースが削除されます （データ ソースに対して書き込み権限があるシステム設定管理者のユーザだけが使用できます。）

- [更新（Refresh）]：データ ソース ページを更新して、変更を反映します。
- [切り替え（Switch Over）]：代替データベース ホストに切り替えるためのプロンプトを表示します。 選択したデータ ソースでセカンダリ データベース ホストが設定されており、かつユーザにデータ ソースに対する編集権限がある場合に、このボタンは有効になります。 データ ソースのノードを切り替えるには、データ ソースのノードの切り替え，（53 ページ）を参照してください。
- [ヘルプ（Help）]：オンラインヘルプを開きます。
- [X]：ページを閉じます。

ストリーミング データ ソース

ライブ データ レポートでは、ストリーミング データ ソースが使用されます。 これは Unified Intelligence Center 内の事前定義のストック データ ソースで、フィールドは編集できません。 データ ソース リスト ページに、プライマリとセカンダリのホスト名または IP アドレスが表示されます。

図 *8*：データ ソース ページ



（注） データ ソース リスト ページを起動すると、証明書に同意するための新しいタブが表示されます。

クエリー ベースのデータ ソースの作成または編集

データ ソースは、システム設定管理者ロールを持っているユーザのみが作成または編集できます。

データ ソースを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [データソース（Data Sources）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 [データソース（Data Sources）] タブで、[作成（Create）] をクリックします。

（注） データ ソースを編集するには、データ ソースを選択してから、[編集（Edit）] をクリックします。

ステップ 3 [プライマリ（Primary）] タブで、[名前（Name）] フィールドにデータ ソースの名前を入力します。

ステップ 4 [説明（Description）] フィールドに、データ ソースの説明を入力します。

ステップ 5 [タイプ（Type）] ドロップダウン リストから、データ ソースのタイプを選択します。

ステップ 6 [データソースホスト（Datasource Host）] フィールドに、ターゲット データ ソースのホスト名または IP アドレスを入力します。

ステップ 7 [ポート（Port）] フィールドに、Unified Intelligence Center にデータベースとの通信を許可するポート番号を入力します。

（注） ポート番号は、Informix データベースの場合にのみ必須フィールドになります。

ステップ 8 [データベース名（Database Name）] フィールドに、データベースの名前を入力します。

ステップ 9 [インスタンス（Instance）] フィールドに、データベースのインスタンスを入力します。

（注） データベースインスタンスの名前は、Informix データベースの場合にのみ必須フィールドになります。

ステップ 10 [タイムゾーン（Timezone）] ドロップダウン リストから、データベースが配置された場所のタイムゾーンを選択します。

ステップ 11 [データベースユーザID（Database User ID）] フィールドに、データベースへのアクセスに必要なユーザ ID を入力します。

ステップ 12 [パスワード（Password）] フィールドに、データベースへのアクセスに必要なユーザ ID のパスワードを入力します。

ステップ 13 [パスワードの確認（Confirm Password）] フィールドに、同じパスワードをもう一度入力します。

ステップ 14 [文字セット（Charset）] ドロップダウン リストから、データベースで使用される文字セットを選択します。

（注） Unified CVP で Informix データベースの場合には、文字セットの値を UTF-8 にする必要があります。

ステップ 15 [最大プールサイズ（Max Pool Size）] ドロップダウン リストから、最大プール サイズを選択します。

（注） 値の範囲は 5 ～ 200 です。 デフォルトの最大プール サイズの値は 100 で、プライマリとセカンダリの両方のデータ ソース タブで共通です。

ステップ 16 データ ソースにアクセスして管理するための適切な権限を割り当てます。

（注） この権限はすべてのユーザとマイ グループにのみ設定されます。 特定の権限については、ユーザ権限の管理, （70 ページ）を参照してください。

マイ グループは、データ ソース所有者のデフォルト グループを指します。 このデフォルト グループがすべてのユーザ グループである場合、管理者以外のユーザに対する権限を設定するオプションは無効になります。 [すべてのユーザ（All Users）] グループの権限を設定できるのは、管理ユーザだけです。

ステップ 17 [接続のテスト（Test Connection）] をクリックして、データベースがアクセス可能で、指定されたクレデンシャルが正しいことを確認します。

ステップ 18 [セカンダリ（Secondary）] タブをクリックして、データ ソースのフェールオーバーを設定します。

（注） データ ソースのフェールオーバーを設定しない場合は、直接ステップ 20 に進みます。

ステップ 19 [フェールオーバー有効（Failover enabled）] チェックボックスをオンにします。

ステップ 20 ステップ 6 ~ 16 の説明に従って、フェールオーバー データ ソースに必要な詳細を入力します。

ステップ 21 [保存（Save）] をクリックします。

データ ソースのノードの切り替え

データ ソースは、必要に応じて手動でセカンダリ データ ソースに切り替えることができます。 ただし、セカンダリ データ ソースを設定しておく必要があります。 データ ソースの設定方法については、クエリー ベースのデータ ソースの作成または編集, （51 ページ）を参照してください。

代替データ ソースに切り替えるには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [データ ソース（Data Sources）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 切り替えるデータ ソースを選択します。

ステップ 3 [切り替え（Switch Over）] をクリックします。

（注） 切り替えはストリーミング ベースのデータ ソースには適用できません。

データ ソースの削除

データ ソースを削除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [データソース（Data Sources）] ページで、データ ソース名の左側にあるオプション ボタンをクリックして、[削除（Delete）] をクリックします。

ステップ 2 表示されたダイアログボックスで、[OK（OK）] をクリックして削除を確定するか、[キャンセル（Cancel）] をクリックしてアクションを取り消します。

（注） データ ソースは、[レポート定義（Report Definitions）] と[値リスト（Value List）]によって参照されます。 レポート定義や値リストで使用されているデータ ソースを削除しようとすると、それらのレポート定義または値リストが削除されるまで、または、別のデータ ソースを参照するように更新されるまで、データ ソースを削除できないことを示すメッセージが表示されます。

第 6 章

値リスト

- 値リストとコレクションの概要，55 ページ
- 値リスト，55 ページ
- 値リストの作成または編集，57 ページ
- コレクションの作成または編集，58 ページ

値リストとコレクションの概要

値リストはデータベース クエリーに基づいており、すべてのエージェントやすべてのスキル グループなどのように、レポート可能な同タイプの項目がすべて含まれています。

コレクションとは、値リストのサブセットで、コレクションを作成することで特定のユーザやユーザ グループに表示するデータ量を制御できます。 たとえば、ある地域、またはある業務内のスキル グループのみを表示する、[スキル グループ（Skill groups）] のコレクションを作成できます。 Unified Intelligence Center では、ストック コレクションはインストールされません。 作成権限を持つユーザは、カスタム コレクションを作成できます。

ユーザがレポートを実行すると、レポートをフィルタできる値リストおよびコレクションが提供されます。 値リストまたはコレクションでフィルタする機能は、グループまたはユーザの権限によって決定されます。

値リスト

値リストには、たとえば、すべてのエージェントやすべてのスキル グループなど、同じタイプに属する *[すべて（all）]* の報告可能項目が入っています。 Unified Intelligence Center は、ストック値リストと共にインストールされます。[値リスト コレクション作成者（Value List Collection Designer User Role）] の役割を持つユーザは、カスタム値リストを作成できます。

値リストはレポートのフィールドとパラメータに関連付けることができます。 レポートと関連付けられた値リストは、そのレポートのフィルタになります。

値リストまたはコレクションでフィルタする機能は、ユーザの役割およびグループまたはユーザの権限によって決定されます。

表 *3*：値リスト ページの行

フィールド	説明
名前（Name）	値リストの名前。
データ ソース（Data Source）	値を取得するデータ ソース。
ステータス（Status）	データ ソースのステータス。 緑色のチェック ボックスは、データ ソースがオンラインであることを意味します。 赤色の X は、オフラインであることを意味します。
タイプ（Type）	値リストのタイプ（[ストック（Stock）] または [カスタム（Custom）]）。 ストック リストは、インストールによって追加されます。 カスタム リストは、値リスト コレクション作成者の役割を持つユーザが作成します。 ストック値リストは、次のとおりです。 • エージェント • エージェント チーム • コール タイプ • エンタープライズ サービス • エンタープライズ スキル グループ • サービス • スキル グループ • トランク グループ
説明（Description）	値リストに対して入力された説明。

値リスト ページでは、次の操作を実行できます。

- [フィルタ（Filter）]：リストを絞り込むには、1 つ以上の文字を入力して [フィルタ（Filter）] をクリックします。
- [クリア（Clear）]：フィルタを削除するには、[クリア（Clear）] をクリックします。
- [作成（Create）]：[値リストの作成/編集（Create/Edit Value List）] ページを開きます。ここで、新しいカスタム値リストを定義できます。

- [編集（Edit）] : 行のオプション ボタンを選択すると有効になります。 [値リストの作成/編集（Create/Edit Value List）] ページが開き、カスタム値リストのプロパティを確認および編集できます。 ストック値リストの場合、編集できるのは権限だけです。
- [値（Values）] : 行のオプション ボタンを選択すると有効になります。 [値リストの更新（Refresh Value List）] ボタンをクリックするとボックスが開き、そこにリスト内の値が表示されます。
- [コレクション（Collections）] : 行のオプション ボタンを選択すると有効になります。 [値リスト（Value Lists）] ページが更新され、値リストのすべてのコレクションが表示されます。
- [削除（Delete）] : 行のオプション ボタンを選択すると有効になります。 要求が確認されると、[カスタム値リスト（custom Value List.）] が削除されます。

（注）
- [ストック値リスト（stock Value List）] は削除できません。
- レポート定義のフィールドから参照されているカスタム値リストは削除できません。
- コレクションを含むカスタム値リストは削除できません。

- [更新（Refresh）] : ページを更新して、他のユーザが行った変更（値リストの作成や削除など）を表示します。
- [ヘルプ（Help）] : オンラインヘルプを開きます。
- [X] : ページを閉じます。

値リストの作成または編集

値リストは、レポート定義クエリーから受信されるデータやその他のデータの取得に使用されます。 値リストとレポートを関連付けるには、次の URL にある『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide*』の“Data Customization”の章を参照してください。

http://www.cisco.com/c/en/us/support/customer-collaboration/unified-intelligence-center/products-user-guide-list.html

値リストを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 左ペインで、[値リスト（Value Lists）] ドロワーを選択します。

ステップ 2 [作成（Create）] をクリックします。

（注） 値リストを編集するには、値リストを選択して、[編集（Edit）] をクリックします。

ステップ 3 次の情報を入力します。

a) [値リスト名（Value List Name）]：値リストの名前を入力します。
b) [バージョン（Version）]：値リストのバージョン番号を入力します。
c) [タイプ（Type）]：このフィールドは自動的に生成されます。 作成したすべての値リストのこのフィールドに、[カスタム（CUSTOM）] の値が設定されます。
d) [データソース（Data Source）]：ドロップダウン リストからデータ ソースを選択します。
e) [説明（Description）]：値リストの説明を入力します。
f) [値リストクエリー（Value List Query）]：値リストの値を取得するためのデータベース クエリーを入力します。 クエリーの有効性をその場で確認するには、[確認（Validate）] をクリックします。 値リスト クエリーの最大長は 15000 です。
（注） 値リスト SQL クエリーでは Order by 句はサポートされません。
g) [コレクションクエリー（Collection Query）]：値リスト クエリーによって生成された値のリストからデータを取得するクエリーを入力します。 このクエリーは、ID タイプのコレクションを作成する場合にのみ必要です。 コレクション クエリーの最大長は 15000 です。 コレクションの詳細については、コレクションの作成または編集, （58 ページ）を参照してください。

ステップ 4 適切な権限を選択します。

ステップ 5 [保存（Save）] をクリックします。

コレクションの作成または編集

コレクションは、値リストによって取得されたデータのサブセットです。 既存の任意の値リスト用にコレクションを作成することができ、それぞれの値リストに複数のコレクションを含めることができます。

手順

ステップ 1 左ペインで、[値リスト（Value Lists）] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 コレクションを作成または編集する値リストを選択します。

ステップ 3 [コレクション（Collections）] をクリックします。

ステップ 4 [すべてのコレクション（All Collections）] で、[作成（Create）] をクリックします。
（注） 既存のコレクションを編集するには、[すべてのコレクション（All Collections）] で、コレクションを選択して、[編集（Edit）] をクリックします。

ステップ 5 [コレクション名（Collection Name）] フィールドに、コレクションの名前を入力します。

ステップ 6 [説明（Description）] フィールドに、コレクションの説明を入力します。

ステップ 7 [コレクションタイプ（Collection Type）] ドロップダウン リストから、コレクションのタイプを選択します。 ここで、さまざまなタイプについて説明します。

- [ID（Identifier）]：関連する値リストで定義されたコレクション クエリーで使用される ID を入力します。

- [ワイルドカード（Wildcard）] : 値リストによって生成された値からデータを検索するワイルドカードを含む文字列を入力します。

  （注） ワイルドカード コレクションは、Java の正規表現を使用します。

- [値（Values）] : 値リストによって生成された値のリストからサブセットを選択できます。

ステップ 8 適切な権限を選択します。

ステップ 9 [保存（Save）] をクリックします。

第 7 章

セキュリティ

- 管理者の概要，61 ページ
- セキュリティの概要，62 ページ
- ユーザ リスト，62 ページ
- ユーザの作成，63 ページ
- ユーザ グループ，65 ページ
- ユーザ グループについて，66 ページ
- ユーザ グループの作成，67 ページ
- 権限について，68 ページ
- ユーザ権限の管理，70 ページ
- 選択した権限で実行，73 ページ
- Cisco Unified Intelligence Center の監査証跡ロギング，73 ページ
- 監査証跡レポート，74 ページ
- セキュリティの考慮事項，74 ページ

管理者の概要

Unified Intelligence Center レポーティング アプリケーションの機能へのアクセスは、セキュリティ管理者ユーザの役割を持つ 1 人以上のユーザによって制御されます。

最初のデフォルトのセキュリティ管理者は、インストール時にシステムアプリケーションユーザとして定義されたユーザです。

セキュリティ管理者は次のことができます。

- ユーザを作成および管理する。

- [ユーザの役割を割り当てる（Assign User Roles）]：ユーザの役割は、ドロワへのアクセスと、ユーザが作成できるオブジェクトを制御するために、ユーザに割り当てられます。
- ユーザをユーザ グループに割り当てる。
- ユーザ グループを作成および管理する。
- [権限を割り当てる（Assign Permissions）]：ユーザの役割は人に割り当てられますが、権限はオブジェクト（ダッシュボード、レポート、レポート定義、データ ソース、値リスト、およびコレクション）に割り当てられます。
- [選択した権限で実行（Run As）] 機能を使用して他のユーザの権限を確認できます。

セキュリティの概要

Unified Intelligence Centerセキュリティは、マルチレイヤの柔軟な機能を提供します。これにより、セキュリティ管理者は、組織のニーズに応じてUnified Intelligence Centerの機能へのフラットな、または階層的なアクセス構造を構築できます。

Unified Intelligence Center 機能へのユーザのアクセスは、以下の条件に基づきます。

- ログイン認証。
- ユーザの組織が Unified Intelligence Center を実行するライセンス タイプ。 たとえば、標準ライセンスを使用する組織は、レポート定義機能にアクセスできません。
- ユーザの役割（各ユーザは、7 種類のユーザの役割の中から、1 つ、複数、またはそのすべてを持つことができます）。
- ユーザがメンバーとなっているユーザ グループ。
- ユーザがアクセスできるオブジェクトの場合、そのオブジェクトを作成したユーザにより割り当てられた [オブジェクトレベル権限（*object-level permissions*）]。

ユーザ リスト

[ユーザリスト（User List）] ページは [セキュリティ（Security）] ドロワーから開きます。 セキュリティ管理者ユーザ ロールを持っていないユーザがこのページにアクセスした場合は、ユーザ ロールを除くすべてのパラメータが表示されます。 このユーザは、自身の役割またはグループ メンバーシップを変更することはできません。

セキュリティ管理者がこのページにアクセスすると、すべての既存ユーザを表示でき、ユーザを作成でき、ユーザを変更または削除でき、ユーザ情報を確認または編集でき、さらに [選択した権限で実行（Run As）] 機能を使用し、ユーザとして Cisco Unified Intelligence Center で作業できます。

表 *4* : *[ユーザリスト（User List）]* ページの各フィールド

フィールド	説明
アクティブなユーザのみを表示（Only show currently active users）	チェックボックスをオンにすると、現在アクティブなユーザが表示されます。
次を含む名前（Name Contains）	このフィルタ フィールドを使用して、名前のリストを絞り込んだり、特定の名前に移動したりします。
ユーザ名（User Name）	ドメインとユーザ名（ドメイン\名前）。
名（First Name）	ユーザの名前。
姓（Last Name）	ユーザの姓名。

[ユーザリスト（User List）] ページで、次の操作を実行できます。

- [作成（Create）] : [ユーザ情報（User Information）] ページが開きます。
- [編集（Edit）] : ユーザ名を選択し、[編集（Edit）] をクリックして [ユーザ情報（User Information）] ページを編集します。
- [削除（Delete）] : ユーザを選択し、[削除（Delete）] をクリックしてユーザを削除します。
- [選択した権限で実行（Run As）] : ユーザを選択し、[選択した権限で実行（Run As）] をクリックして Cisco Unified Intelligence Center レポーティング インターフェイスを更新します。
- [更新（Refresh）] : ページを更新すると、最新の変更内容が反映された [ユーザリスト（User List）] が表示されます。
- [ページ（Page）] : 矢印をクリックし、[ユーザリスト（User List）] の次のページに移動します。
- [ヘルプ（Help）] : オンラインヘルプを開きます。
- [X] : ページを閉じます。

ユーザの作成

ユーザを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [セキュリティ（Security）] > [ユーザリスト（User List）] に移動します。

ステップ 2 [全般情報（General Information）] タブで、次の手順を実行します。

a) [ユーザ名（User Name）] フィールドに、ドメインおよびユーザ名（ドメイン\名前）を入力します。
b) [エイリアス（Alias）] フィールドに、このユーザのエイリアス名を入力します。
c) [ユーザがアクティブ（User is active）] チェックボックスをオンにして、ユーザがログインしてアクティブでいられるようにします。
（注） チェックボックスがオフの場合、ユーザはログインできません。
d) [名（First Name）] フィールドに、ユーザの名を入力します。
e) [姓（Last Name）] フィールドに、姓を入力します。
f) [組織（Organization）] フィールドに、ユーザに関連する会社名またはその他の説明テキスト（地域や業種など）を入力します。
g) [電子メール（Email）] フィールドに、ユーザの電子メール アドレスを入力します。
h) [電話（Phone）] フィールドに、ユーザの電話番号を入力します。 この番号は、ユーザの個人の電話番号でも緊急連絡先でもかまいません。
i) [説明（Description）] フィールドに、ユーザの説明を入力します。
j) [タイムゾーン（Time Zone）] フィールドで、レポートで使用するタイム ゾーンをドロップダウン リストから選択します。
このタイムゾーンは、ユーザのスケジュール設定されたレポートにも使用され、レポート サーバに使用されるタイムゾーンよりも優先されます。
（注） このフィールドが空のままの場合、システムはレポート サーバのタイムゾーンを使用します。
k) [週の開始曜日（Start Day of the Week）] について、次の手順を実行します。
- [ロケールベース（Locale Based）] を選択すると、ロケールに基づいた週の開始曜日が選択されます。
- [カスタム設定（Custom Settings）] を選択すると、ドロップダウン リストから週の 7 つの曜日の中から 1 つを選択できます。

（注） [週の開始曜日（Start Day Of The Week）] は、スケジュール設定されたレポート、レポート ビュー、およびパーマリンクで使用されます。
l) [役割（Roles）] フィールドでは、1 つ以上の役割を選択しこのユーザに割り当てます。
セキュリティ管理者がユーザの役割を追加または変更したとき、変更はユーザがログアウトして再びログインするまで有効になりません。
m) [権限（Permissions）] フィールドでは、新しいオブジェクトの作成時に、マイ グループのユーザ権限設定を選択します。 [マイ グループ（My Group ）] は、オブジェクト所有者のデフォルト グループです。
（注） [マイ グループ（My Group ）] の設定では、このユーザのデフォルト グループに属する他のユーザがオブジェクトを書き込み、または実行できるかどうかを指定します。 高いレベルの権限が、他の権限よりも優先されます。

ステップ 3 [グループ（Group）] タブで、このユーザがメンバーであるグループと、ユーザのグループ メンバーシップを追加する方法を指定できます。 次の内容を表示できます。

- [マイグループ（My Group）]：このフィールドにはユーザのデフォルト グループが表示されます。 セキュリティ管理者は、このグループを変更できません。 このグループがそのユーザの「マイ グループ」として表されます。
- [選択可能なグループ（Available Groups）]：このリストには、作成済みのグループのうち、ユーザがまだメンバーになっていないグループがすべて表示されます。 矢印を使用し、列間でグループを移動できます。
- [選択済みグループ（Selected Groups）]：この列には、そのユーザがメンバーになっているすべてのグループが表示されます。 矢印を使用し、列間でグループを移動できます。

（注） デフォルトで、すべてのユーザの [選択済みグループ（Selected Groups）] 列に [すべてのユーザ（AllUsers）] が含まれています。 [選択済みグループ（Selected Groups）] 列から [すべてのユーザ（AllUsers）] グループを削除することはできません。

ユーザ グループ

[ユーザグループ（User Groups）] ページは [セキュリティ（Security）] ドロワーから開きます。このページを使用して、既存のグループの表示、グループの作成または削除、グループ情報の確認または編集を行います。

システムによって作成されるデフォルト グループは次の 2 つです。

- [すべてのユーザ（*All Users*）] グループは、Unified Intelligence Center によって設定されます。どのユーザも、デフォルトでこのグループに属します。
- [管理者（*Administrators*）] グループは、管理者によって構成されます。

表 *5*：*[ユーザグループ（User Groups）]* ページのフィールド

フィールド	説明
次を含む名前（Name Contains）	このフィルタ フィールドを使用して、グループ名のリストを絞り込んだり、特定の名前に移動したりします。
名前（Name）	グループの名前。

フィールド	説明
フルネーム（Full Name）	フルネームとは、グループの子関係がある場合、ドット区切り文字で示されるグループの子関係を示します。 たとえば、グループ 3 のデフォルト グループがグループ 1 であり、グループ 1 が最上位グループ（親グループがないグループ）である場合、グループ 1 のフルネームは、*[グループ 1 （Group1）]*になります。 グループ 3 のフルネームは、*[グループ 1.グループ 3（Group1.Group3{）]*になります。
説明（Description）	グループを説明するテキストです。

[ユーザグループ（Create）] ページでは、次の操作を実行できます。

- [作成（Create）] : [グループ情報（Group Information）] ページが開きます。
- [編集（Edit）] : グループ名を選択して [編集（Edit）] をクリックすると、[グループ情報（Group Information）] ページが開きます。
- [削除（Delete）] : グループ名を選択して [削除（Delete）] をクリックします。
- [更新（Refresh）] : ページを更新し、変更内容が反映された [グループリスト（Group List）] を表示します。
- [ヘルプ（Help）] : オンラインヘルプを開きます。
- [X] : ページを閉じます。

ユーザ グループについて

ユーザ グループは構成体です。この構成体を使用すれば、セキュリティ管理者は、Unified Intelligence Center 機能をパーティションに分けることができます。

ユーザ グループを作成すると、複数のユーザがダッシュボードおよびレポートに同じアクセスを必要としている場合、または地域または組織の要件に基づいて複数のユーザに別個の権限および機能が必要な場合に、ユーザのプロビジョニング プロセスが迅速化されます。

ユーザ グループは、データがデータベースにどのように保管されるかに影響を与えません。 同じ操作をユーザごとに繰り返すのではなく、1 回の操作でグループのユーザ全員に権限を割り当てるためだけにユーザ グループは使用されます。

システム定義のすべてのユーザ グループ

すべてのユーザは、自動的にシステム定義された [すべてのユーザ（*All Users*）] グループのメンバーになります。

[すべてのユーザ（*All Users*）] は、常に [ユーザ グループの管理（Manage User Groups）] ウィンドウに表示されます。 セキュリティ管理者は、このグループを削除できません。

システム定義の管理者ユーザ グループ

セキュリティ管理者は自動的に、システム定義の管理者グループのメンバーになるため、このグループに他のセキュリティ管理者を追加できます。

追加のセキュリティ管理者を、[管理者（Administrator）] グループに追加する必要があります。役割を割り当てても、自動的にはそのグループのメンバーになりません。

ユーザ定義のユーザ グループ

セキュリティ管理者は、任意の数のユーザ グループを作成でき、そこにユーザを追加できます。これらの他のユーザ グループから、1 つのユーザ グループが、そのユーザの *[グループ（Group）]* または（*[マイ グループ（My Group ）]* とも呼ばれます）として指定されます。

デフォルト グループ

カスタマー定義のグループを作成したら、セキュリティ管理者は、任意の数のこれらのグループにユーザを追加でき、そのユーザのデフォルト グループ（[マイ グループ（My Group）]）としてこれらのグループの 1 つを設定できます。 [すべてのユーザ（All Users）] グループをデフォルト グループとして選択することもできます。

オブジェクトの所有者は、そのグループの権限を設定できます。 セキュリティ管理者以外、[ユーザ権限（User Permissions）] ページで他のグループまたは個々のユーザに追加の権限を設定できません。 オブジェクトへのユーザのアクセス権限は、すべての権限ソースからそのユーザが取得する最高レベルの権限です。

ユーザ グループの作成

ユーザ グループを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [セキュリティ（Security）] > [ユーザグループ（User Groups）] に移動します。

ステップ 2 [全般情報] タブで、次の手順を実行します。

a) [グループ名（Group Name）] フィールドに、グループの名前を入力します。 このフィールドを使用できるのは、グループを新たに作成した場合に限ります。

b) [説明（Description）] フィールドで、このグループについて説明するテキストを入力するか編集します。

ステップ 3 [グループ（Groups）] タブで、次の手順を実行します。

a) [デフォルトのグループ（Default Group）] : ドロップダウン リストからデフォルトのグループを選択します。

b) [選択可能なグループ（Available Groups）] : このグループの親として使用可能な作成済みグループを表示します。 [>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。

c) [選択済みグループ（Selected Groups）]：このグループが子になっているグループを表示します。 [>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。

ステップ 4 [グループメンバー] タブで、次の手順を実行します。

a) [ユーザ（Users）] タブ：

- [選択可能なユーザ（Available Users）]：このグループの子として使用可能な作成済みユーザをすべて表示します。 [>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。
- [選択済みユーザメンバー（Selected User Members）]：現在このグループの子になっているユーザを表示します。 [>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。

b) [グループ（Groups）] タブ：

- [選択可能なグループ（Available Groups）]：このグループの子として使用可能な作成済みグループをすべて表示します。 [>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。
- [選択済みグループメンバー（Selected Groups Members）]：現在このグループの子になっているグループを表示します。 [>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。

ステップ 5 新規エントリ、またはフィールドに対する変更を更新するには、[保存（Save）] をクリックします。

ステップ 6 キャンセル、またはページを閉じるには、[キャンセル（Cancel）] をクリックします。

権限について

[ユーザの役割（User Roles）] は人に割り当てられますが、権限はオブジェクトに割り当てられます。 Unified Intelligence Center オブジェクトには、[ダッシュボード（ashboards）]、[レポート（Reports）]、[レポート定義（Report Definitions）]、[データ ソース（Data Sources）]、[カテゴリ（Categories）]、[値リスト（Value Lists）]、および [コレクション（Collections）] があります。

権限：

- [実行（EXECUTE）]：ユーザがオブジェクトに対する実行権限を持っている場合、そのユーザはオブジェクトに応じて操作を実行できます。

  たとえば、[実行権限（EXECUTE permission）] があると、ユーザは、レポートを実行、印刷、および更新でき、ダッシュボードを開いて更新でき、ダッシュボードスライドショーを実行でき、値リスト クエリーを表示できます。 [実行権限（EXECUTE permission）] には、読み取り権限が含まれています。

（注） カテゴリに設定された権限は繰り返して使用されません。 ダッシュボード、レポート、またはレポート定義タイプのすべてのエントリに対し、個別の実行権限/書き込み権限が必要です。

- [書き込み（WRITE）] : ユーザは、オブジェクトの書き込み権限を持っている場合、そのオブジェクトを変更、名前変更、または削除できます。 [書き込み権限（WRITE permission）] があると、ユーザは、レポートを名前を付けて保存、インポート、およびエクスポートでき、データ ソースを編集でき、[カスタム値リスト（custom Value List）] を削除できます。 [書き込み権限（WRITE permission）] には、実行権限と読み取り権限が含まれています。

  （注） オブジェクトの権限を設定する場合に [チェックボックス（check boxes）] が選択されないと、ユーザは、そのオブジェクトへのアクセス権限を所持しません。

  Unified Intelligence Center のすべてのカテゴリ ツリーでは、レポート、レポート定義、ダッシュボードの各ルールを使用できます。

- エンティティを削除する場合、エンティティとエンティティの親カテゴリの書き込み権限が必要です。
- カテゴリを削除するには、カテゴリ、カテゴリの親、およびそのカテゴリに所属するすべてのカテゴリまたはエンティティの書き込み権限が必要です。
- ユーザは、エンティティを編集または保存するだけなら、すぐ上の親カテゴリの書き込み権限がなくても可能です。
- エンティティの書き込み権限が有効になっていない場合には、ユーザが使用できるのは [名前を付けて保存] 機能のみです。
- [インポートしたレポート定義] 内のカテゴリ所有者は、管理者から [インポートしたレポート定義] カテゴリに対する明示的な書き込み権限を与えられている場合、カテゴリを削除できます。

権限は組み合わされ、最も高いレベルが優先されます。

ユーザはオブジェクトの権限をさまざまなソースから受け取ります。 権限は、[すべてのユーザ（All Users）] グループ、デフォルト グループ（[マイ グループ（My Group）]）、またはセキュリティ管理者により割り当てられた権限から継承できます。 ユーザがオブジェクトにアクセスする場合には、これらのすべて権限のうち、最も高いレベルの権限が使用されます。

ユーザの役割および権限

ユーザの役割を使用すれば、その役割に対応するドロワを [“開く（open）]” ことができます。 実行権限を所持している場合、そのドロワに対応したオブジェクトを作成できます。 たとえば、

ダッシュボード作成者の場合、[利用可能なダッシュボード（Available Dashboards）] ページでダッシュボードを作成できます。

オブジェクトを作成すると、そのオブジェクトの [所有者（*owner*）] になります。 オブジェクトの書き込み権限を持っている場合は、自分のグループ内のユーザにのみそのオブジェクトの権限を設定できます。

オブジェクトがまだ処理中で、他のユーザによるアクセスを許可したくない場合は、[すべてのユーザ（All Users）] と [グループ（Group）] の両方ですべての権限のチェックを外し、[“プライベート（private）] ” にします。

オブジェクトが準備完了になったら、デフォルト グループ（[マイ グループ（My Group）]）の権限を [実行（EXECUTE）] または [書き込み（WRITE）] に設定します。 たとえば、自身のグループにダッシュボードを作成する場合に、そのダッシュボードにメモを付加したときには、そのメモをグループ内の他の人が更新できるようにすることがあります。

*[*自分自身（*you*）*]* がダッシュボード作成者であっても、[利用可能なダッシュボード（Available Dashboards）] ページに他のダッシュボード作成者によって作成された（所有される）ダッシュボードが含まれる場合、グループの権限や、それぞれのダッシュボードに対して所有者が設定したオブジェクトレベルの権限によっては、ダッシュボードを表示できないことがあります。

ユーザ権限の管理

このページを使用し、グループまたは個々のユーザに対して、追加の権限を設定します。

[ユーザ権限（User permissions）] ページには、以下のタブがあります。

割り当てられているグループ権限

手順

ステップ 1 [権限（Permissions For）] パネルでオブジェクト タイプを選択します。 [ダッシュボード（Dashboard）]、[レポート（Report）]、または [レポート定義タイプ（ Report Definition type）] では、カテゴリ、またはカテゴリ内のオブジェクトを選択できます。他のオブジェクトタイプの場合、リストからオブジェクトを選択します。 オブジェクトの権限がすでに割り当てられているグループがすべて、[選択項目に対するグループ権限（Group permissions for the selected item）] パネルに表示されます。

ステップ 2 [すべてのグループ（All Groups）] パネルでグループを選択します。 このグループのユーザ メンバーがすべて、[選択済みグループのすべてのユーザ（All Users for the selected group）] パネルに表示されます。

ステップ 3 [権限の設定（Set Permissions）] をクリックします。 グループに必要なレベル（[実行（Execute）]、[書き込み（Write）]）にチェックを入れた後、[OK] をクリックします。

ステップ 4 [選択項目に対するグループ権限（Group Permissions for the selected item）] パネルが更新され、そのグループと [ステップ 3（Step 3）] で定義したグループの権限がこのパネルに表示されます。

（注） [セキュリティ管理者（Security Administrators）] が[ユーザ権限（User Permissions）] を追加、または変更しても、変更はすぐに反映されないことがあります。

表 *6* : *[グループメンバー]* タブのフィールド

フィールド	説明
[権限（Permissions For）] パネル（左上）	ドロップダウンリストをクリックし、権限を設定するオブジェクトを選択します。 オプションは、[データソース]、[レポート定義]、[レポート]、[ダッシュボード]、[値リスト]、[コレクション] です。 [オブジェクト タイプ（object type）] を選択すると、パネルが更新されて、そのオブジェクトの項目またはカテゴリのリストが表示されます。
[すべてのグループ（All Groups）] パネル（右上）	このパネルには、利用可能な[ユーザ グループ（User Groups）] が表示されます。 [ユーザ グループ（User Groups）] を強調表示すると、このページが更新されて、グループのメンバーがリストされる [選択したグループのすべてのユーザ（All Users for Selected Group）] パネルが表示されます。
[選択済みグループのすべてのユーザ（All Users for the Selected Group）] パネル（右下）	このパネルには、[すべてのグループ（All Groups）] パネルで強調表示したグループのメンバーをすべて表示します。
[権限の設定（Set Permissions）] ボタン	このオプションをクリックするとダイアログボックスが開き、[権限] パネルで選択されたオブジェクトと [すべてのグループ] パネルで選択されたグループに対して権限レベルを選択できます。
選択項目に対するグループ権限（Group Permissions for the selected item）	このパネルには、選択したオブジェクトの権限がすでに割り当てられているグループ、およびその権限レベルが表示されます。

割り当てられているユーザ権限

手順

ステップ 1 [権限（Permissions For）] パネルでオブジェクト タイプを選択します。 ダッシュボード、レポート、またはレポート定義タイプでは、カテゴリ、またはカテゴリ内のオブジェクトを選択できます。 他のオブジェクト タイプの場合、リストからオブジェクトを選択します。 オブジェクトの権限がすでに割り当てられているユーザがすべて、[選択項目のユーザ権限（User permissions for the selected item）] パネルに表示されます。

ステップ 2 [ユーザ リスト（User List）] パネルでユーザ名を選択します。

ステップ 3 [グループの表示（Show Groups）] をクリックして、このユーザがメンバーとなっているグループを表示します。

ステップ 4 [権限の設定（Set Permissions）] をクリックし、このユーザに対して設定したいレベル（実行（Execute）、書き込み（Write））をチェックし、 [OK] をクリックします。
[選択項目のすべての権限（All Permissions for the selected item）] パネルが更新されて、ステップ 3 および 4 でこのユーザについて追加または変更したユーザ権限が表示されます。

フィールド	説明
[権限（Permissions For）] パネル（左上）	ドロップダウン矢印をクリックして、権限を設定するオブジェクトの種類を選択します。 オプションは、[データソース（Data Sources）]、[レポート定義（Report Definitions）]、[レポート（Reports）]、[ダッシュボード（Dashboards）]、[値リスト（Value Lists）]、[コレクション（Collections）] です オブジェクト タイプを選択すると、パネルが更新されて、そのオブジェクトの項目またはカテゴリのリストが表示されます。
[ユーザ リスト（User List）] パネル（右上）	このパネルには、現在のユーザが表示されます。 このリストをフィルタリングして、1 人または多数のユーザ名を選択します。
[グループの表示（Show Groups）] ボタン	このボタンをクリックすると、[選択済みユーザのすべてのグループ（All Groups for the selected user）] パネルが表示されます。
選択済みユーザのすべてのグループ（All Groups for the selected User）（右下）	このパネルは、上にある [ユーザ リスト（User List）] パネルでハイライトされているユーザ名がメンバーとなっている、すべてのグループを表示します。
[権限の設定（Set Permissions）] ボタン	このボタンをクリックするとダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスで、オブジェクトの権限レベル（実行、書き込み）を選択します。

フィールド	説明
選択項目のすべての権限（All Permissions for the selected item）	このパネルには、そのオブジェクトの権限を所持しているユーザ、およびこれらユーザが所持している権限のレベルが表示されます。

（注） オブジェクトの所有者の権限は変更できません。 所有者は常にオブジェクトの書き込み権限を持っています。 たとえば、ユーザがレポート1の所有者である場合、そのユーザはレポート1の書き込み権限を持ち、他の誰もその権限を実行権限に変更することはできません。

選択した権限で実行

セキュリティ管理者は、[ユーザ リスト（User List）] ページで名前を選択して、 [選択した権限で実行（Run As）]をクリックできます。 これにより、Unified Intelligence Center の Web ページが更新され、ユーザがログインしたときのインターフェイスが反映されます。

このツールを使用し、ユーザの役割と権限が正しく設定されていることを確認します。

（注）
- 別のユーザの権限で実行すると、ページの最上部に、ログイン ID と Run As ID が両方とも表示されます。
- 自分自身の権限で実行することはできません。
- 1 レベルのユーザの権限で実行することができます。 セキュリティ管理者は、ユーザ A の *[*権限で実行（*Run As*）*]* し、さらに、ユーザ A として、続いてユーザ B の*[*権限で実行（*Run As*）*]* する、ということはできません。

[選択した権限で実行（Run As）] モードを終了するには、ページの最上部に表示されている [[選択した権限で実行] を停止（Stop Run As）]をクリックします。

Cisco Unified Intelligence Center の監査証跡ロギング

Unified Intelligence Center は、監査証跡ロギングをサポートするようになりました。 この機能を使用すれば、Unified Intelligence Center サーバのエンティティに対して実行された作成、更新、変更、および削除に関連したトランザクションの一連の監査記録を確認できます。 監査証跡ストック レポートを使用すれば監査証跡を表示できます。 デフォルトでは、[システム管理者（System Administrators）] 以外、この機能にアクセスしてこの機能を表示することはできません。 ただし、このため、[システム管理者（System Administrators）] は、他の Unified Intelligence Center ユーザに権限を与えれば、この機能を使用できます。

（注） [監査証跡レポート（Localization of Audit Trail report）] のローカリゼーションはサポートされていません。

Unified Intelligence Center の監査証跡ロギングの表示

手順

ステップ 1 Unified Intelligence Center レポーティング インターフェイスにログインします。

ステップ 2 [レポート（Reports）]>[ストック（Stock）]>[Intelligence Center 管理者（Intelligence Center Admin）] の順に移動して、 [監査証跡（Audit Trail）] をクリックします。 [監査証跡レポート フィルタ（Audit Trail Report Filter）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 必要なフィルタ基準を指定した後、[実行（Run）]をクリックします。 システムは、指定したフィルタ基準に基づいて[監査証跡（Audit Trail）] レポートを表示します。

監査証跡レポート

[ビュー（Views）]：このレポートには、[非グループ化（Non-grouped）]、[Groupby – エンティティ名（Groupby – EntityName）]、[Groupby – ユーザ名（Groupby – Username）]の 3 つのグリッド ビューがあります。

[グループ化（Grouping）]：このレポートには、ユーザ名、エンティティ名でグループ化およびソートされた2 つのグループ化ビューがあります。 3 番目のビューは、[グループ化（Grouping）] されておらず、このレポートのデフォルト ビューでもあります。

[値リスト（ValueList）]：[CUIC ユーザ（CUIC Users）]、[CUIC 操作（CUIC Operations）]、[CUIC エンティティ タイプ（CUIC Entity Types）]。

データを検索するデータベース スキーマ テーブル：

- CUICAUDITLOG
- CUICLOGEDENTITY

セキュリティの考慮事項

ユーザを、1 つまたは複数の他のグループのメンバーにする場合、これらのグループの 1 つをユーザの [デフォルト グループ（default group）] にし、デフォルト グループの各権限を、[すべてのユーザ（All Users）] グループの権限より高く設定します。

[デフォルト グループ（default group）] の権限の方が高いので、[すべてのユーザ（All Users）] グループの各権限より優先されます。 個々の [ユーザ権限（User Permissions）] は、[グループ権限（group permissions）] より優先されます。

XSS の脆弱性

Unified Intelligence Center では、クロスサイトスクリプティング（XSS）の脆弱性に対処しています。 Unified Intelligence Center に悪質なスクリプト、パターン、または入力データが入力された場合には、サーバにより「悪質な入力データが検出されました。」という警告メッセージが表示されます。

Unified Intelligence Center にアクセスするユーザは、自由形式のテキストに以下の特殊文字を含まないように注意する必要があります。

- 括弧のペア（( )）
- 角ブラケット（>）
- スラッシュ（/）
- 疑問符（?）
- 実行可能スクリプト（JavaScript など）

また、テキストを引用符（"）や（'）で開始することもできません。

（注）

- XSS 脆弱性は、Unified Intelligence Center の英語ロケールのみで対処されています。
- リリース 10.5(1) では、ダッシュボードのウィジェットについては XSS 脆弱性は対処されていません。
- XSS 脆弱性は、レポートやレポート定義（XML/zip）のインポート中、およびリリース 10.5(1) のヘルプファイル（Html/zip）のアップロード中には対処されません。
- レポート、レポート定義、ダッシュボード、データ ソース、値リスト、またはコレクションですでにこれらの特殊文字を使用している既存のユーザについては、Unified Intelligence Center でこれらの既存のエンティティを表示することが可能です。 ただし、ユーザがこれらのエンティティをカスタマイズする場合には、自由形式のテキストに上述の文字を使用しないように注意する必要があります。

第 8 章

スケジューラ

- スケジュール リスト，77 ページ
- レポートのスケジュールの作成，78 ページ
- スケジュール済みレポートのメール送信の設定，79 ページ
- リモート ロケーションへのレポート保存の設定，80 ページ

スケジュール リスト

[スケジュールリスト（Schedule list）] ページでは、次の操作を実行できます。

- [フィルタ（Filter）]/[クリア（Clear）] : リストを絞り込むには、1 つ以上の文字を入力して [フィルタ（Filter）] をクリックします。 フィルタを削除するには、 [クリア（Clear）]をクリックします。
- [作成（Create）] : レポート スケジュールの[作成/編集（Create/Edit）] ページが開きます。新しいスケジュールを定義できるよう、フィールドは空白です。 このページを使用し、レポートを電子メールで送信するためのスケジュールを作成、または編集したり、ダッシュボードに表示したりし、リモート ロケーションに CSV ファイルを保存することができます。 詳細については、以下を参照してください。
  - レポートのスケジュールの作成，（78 ページ）
  - スケジュール済みレポートのメール送信の設定，（79 ページ）
  - リモート ロケーションへのレポート保存の設定，（80 ページ）
- [編集（Edit）] : 行が選択されると有効になり、レポート スケジュールの [作成/編集（Create/Edit）] ページが開きます。このページで、スケジュールを変更できます。
- [削除（Delete）] : 行が選択されているときに有効になります。確認のプロンプトが表示された後、スケジュールが削除されます。 スケジュールが削除された場合、スケジュールを開こうとするとエラーが表示されます。 ただし、削除済みのスケジュール設定されたレポートと同じ日時範囲のレポートを実行することによってデータを再び取得可能です。

- [有効（Enable）]：スケジュールを有効にします。
- [無効（Disable）]：スケジュールを無効にします。
- [今すぐ実行（Run Now）]：スケジュール設定されたレポートをすぐに実行します。 次回のスケジュール設定されたジョブには影響しません。
- [更新（Refresh）]：スケジュールリスト ページを更新し、変更内容を反映します。
- [ヘルプ（Help）]：オンラインヘルプを開きます。
- [X]：ページを閉じます。

レポートのスケジュールの作成

レポートは、ダッシュボード内で自動的に実行するようにスケジュールできます。 たとえば、期間レポートを30分ごとに実行し、前回の期間までのその日のアクティビティを取得することができます。

（注） ライブ データではスケジュール設定をサポートしていません。

手順

ステップ 1 スケジューラで、[作成（Create）] をクリックします。

ステップ 2 [全般設定] タブで、スケジュール設定するレポートの [スケジュール名] を入力します。

ステップ 3 [レポート（Report）] 領域で、[レポート（Reports）] を選択し、レポートを選択します。

ステップ 4 [フィルタの設定] チェックボックスをオンにして、フィルタを設定します。 デフォルト フィルタを使用するには、このチェックボックスをオフにしてください。
フィルタを持たないレポートをスケジュール設定することはできません。

ステップ 5 [フィルタ条件の設定（Set filtering criteria）] リンクをクリックし、フィルタ設定ページに移動します。

（注） 詳細については、フィルタのタイプ，（34 ページ）を参照してください。

ステップ 6 [期間（Duration）]セクションでカレンダーアイコンをクリックして、[開始日（Start Date）] を選択し、[終了日なし（No End Date）] チェックボックスをオンにするか、またはカレンダー アイコンで [終了日（End Date）] を選択します。

ステップ 7 [反復パターン（Recurrence Pattern）]セクションで、スケジュール設定するレポートの頻度を指定します。 次のいずれかのオプションを選択します。

- [1回]：1 回だけ実行する時刻を指定します。
- [毎日]：4 日ごとなど、何日ごとに実行するかを指定します。
- [毎週（Weekly）]：スケジュールされたレポートを実行する週数と曜日を指定します。

- [毎月]：スケジュールされたレポートを 1 ヵ月に一度実行する日と、それを繰り返す月数を指定します。

  （注） [最終] を使用すると、月末日を指定できます。

[頻度] セクションで、スケジュール設定した日にレポートを実行する回数を指定します。

（注） レポートをスケジュール設定できる最大頻度は 5 分に 1 回です。

ステップ 8 [保存（Save）] をクリックします。

スケジュール済みレポートのメール送信の設定

[スケジューラ] の [メール] タブをクリックして、スケジュール済みレポートをメールで送信するためのスケジュールを設定します。

はじめる前に

管理コンソールでメール サーバを設定します。 不明な点については管理者に連絡するか、http://www.cisco.com/c/en/us/support/customer-collaboration/unified-intelligence-center/products-maintenance-guides-list.html で『*Administration Console User Guide for Cisco Unified Intelligence Center*』を参照してください。

手順

ステップ 1 [メールの配信] フィールドで、[追加] をクリックし、受信者のメール アドレスを入力します。

ヒント 複数の受信者を追加するには、ステップ 1 を繰り返します。

（注） [メールの配信（Email Distribution）] フィールドにメール ID を入力すると、メール ページの検証が行われます。 [メールの配信（Email Distribution）] フィールドにメール ID が入力されなければ、検証は行われません。

ステップ 2 [メールビュー（Email View）] ドロップダウン メニューを使用して、メールで送信するレポートのビューを選択します。

（注） スケジュールできるのは、グリッド ビューのみです。

ステップ 3 [メールの件名] フィールドに、件名行のテキストを入力します。

ステップ 4 [ファイルタイプ（File Type）] ドロップダウン メニューで、ファイルのタイプを選択します。 次のいずれかを実行します。

- [インラインHTML]：HTML 書式でレポートを送信します。
  - 履歴レポートには、8000 行の上限があります。
  - リアルタイム レポートには、3000 行の上限があります。

- [XLS]：Microsoft Excel の添付ファイルとしてレポートを送信します。
  - 履歴レポートには、8000 行の上限があります。
  - リアルタイム レポートには、3000 行の上限があります。

- [PDF]：PDF の添付ファイルとしてレポートを送信します。

  PDF の添付ファイルには次の制限があります。
  - 生成した PDF は横向きか縦向きのどちらかになります。 横向きがデフォルトの設定です。
  - 生成された PDF では標準フォント サイズが使用されます。これは横向きでは 10 ピクセル、縦向きでは 8 ピクセルです。 PDF では、グリッド ビュー エディタで設定されたフォント サイズが無視され、プリンタに適したフォント出力が維持されます。

    （注） PDF では、HTTP 形式でのみ画像がサポートされます。
  - 生成された PDF では、選択された向きのページ内に収まる行が保持されます。 ページ内に収まらない列は切り捨てられます。
  - PDF の添付ファイルでは、1000 行までサポートされます。 スケジュール済みレポートが 1000 行を超える場合には、メール メッセージが送信されます。
  - 生成された PDF では列のワードラップがサポートされていません。 長いテキストの場合には、グリッド エディタで列の幅をカスタマイズしてオーバーラップを回避できます。 ただし、このカスタマイズにより PDF で表示される列数が少なくなる可能性があります。
  - 生成された PDF はマルチバイト文字をサポートしていません。 また、é、ô、ü などの発音区別符号付き文字はサポートされません。

ステップ 5 [保存（Save）] をクリックします。

リモート ロケーションへのレポート保存の設定

スケジューラで、[リモートロケーションに保存] タブをクリックしてレポートを保存します。

手順

ステップ 1 [プロトコル（Protocol）] ドロップダウン リストから、[SFTP（SFTP）] を選択してリモート ロケーションへのセキュア接続を確立します。

ステップ 2 [レポートビュー] ドロップダウン リストから、保存するレポートのビューを選択します。

ステップ 3 [ホスト] フィールドに、リモート ロケーションの IP アドレスを入力します。

ステップ 4 [ポート] に、SFTP のポート番号を入力します。

（注） デフォルトのポート番号は 22 です。

ステップ 5 [ユーザ名] に、ホストのユーザ名を入力します。

ステップ 6 [パスワード] に、ホストのパスワードを入力します。

ステップ 7 [ディレクトリパス] フィールドに、.csv ファイルを保存するホスト上のパスを入力します。

ステップ 8 [保存（Save）] をクリックします。

（注） CSV タイプの定期レポートの日時形式は次のとおりです。Day_of_week Month Date_of_Month HH:MM:SS SERVER_TIMEZONE YYYY たとえば、Fri Oct 24 01:00:00 EDT 2014。

第 9 章

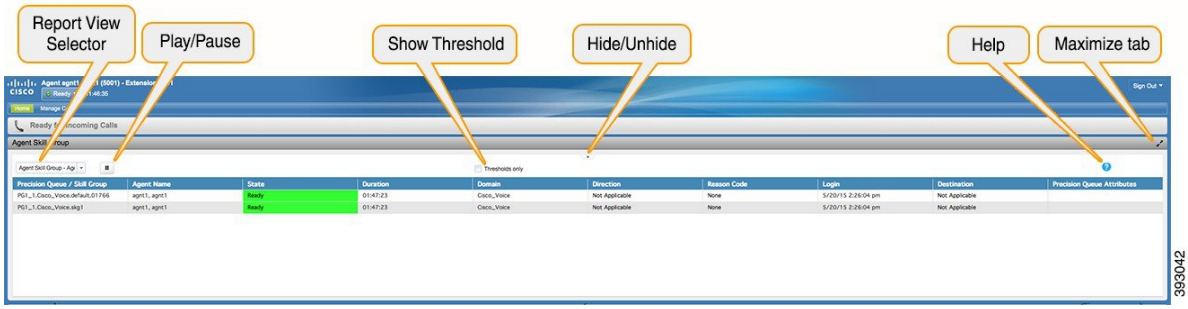
ガジェット ツールバー

- ガジェット ツールバー, 83 ページ

ガジェット ツールバー

Unified Intelligence Center では、Cisco Finesse デスクトップのライブ データ レポート ガジェットにツールバーが表示されます。 次の図に、ガジェット ツールバーの例を示します。

図 9 : ガジェット ツールバー



レポート ビュー セレクタ

レポート ガジェット ユーザは、ツールバーのレポート ビュー セレクタから複数のレポートを選択して表示することができます。

レポート ビューセレクタは、レポートが一覧表示されるドロップダウン リストです。 リストは、レポート名 - ビュー名の形式で表示されます。 このリストからレポートを選択すると、それが太字で表示されます。 レポート ビュー セレクタのリストには、5 つのレポート ビューを表示できます。

（注） 新しいレポートをレポート ビュー セレクタに追加するには、Cisco Finesse 管理者にお問い合わせください。

ツールバーの非表示/再表示

ガジェット ツールバーの中央に、ツールバーを非表示または再表示するための矢印タブが表示されます。

この矢印タブをクリックすると、レポート ガジェットのツールバーが非表示になって、レポートの表示範囲が広がります。

もう一度矢印タブをクリックすると、ツールバーがガジェットに再表示されます。 矢印タブの上にカーソルを移動すると、非表示と再表示のメッセージが表示されます。

一時停止と再生

ツールバーに表示される一時停止/再生ボタンを使用すれば、ライブ データ ガジェット内のイベント更新を一時停止または再開することができます。 レポート ユーザの場合は、一時停止/再生ボタンが次のように動作します。

- 一時停止：更新が停止されます。
- 再生：更新が再開され、ガジェットに表示されます。

（注） ボタンが一時停止状態で、ガジェットで更新が使用できる場合は、一時停止/再生ボタン上に通知が表示されます。

しきい値のみ表示

[しきい値のみ表示（Show Thresholds Only）] チェックボックスがオンになっている場合は、しきい値と一致する行だけがレポートに表示されます。 デフォルトでは、すべてのレポートでこのチェックボックスはオフになっています。

ガジェット ヘルプ

ガジェット ツールバーには、ヘルプ アイコンが表示されます。 ヘルプ アイコンをクリックすると、ウィンドウが開いて、関連するレポート ガジェットのレポート テンプレート ヘルプが表示されます。

索 引

か

書き込み権限せえ□□ 68

け

権限（Permissions） 68
　ユーザ グループ 68

し

実行権限 68

せ

セキュリティ（security） 74
　ベスト プラクティス（best practices） 74

へ

ベスト プラクティス 74
　セキュリティ 74

ゆ

ユーザの権限（User Permissions） 68
　書き込み、読み取り、および実行 68

よ

読み取り権限 68

ん

管理者ユーザ グループ（Administrator User Group） 66
グループ（Groups） 66
すべてのユーザ グループ 66
選択した権限で実行（Run As） 73
ユーザ 73
　選択した権限で実行（Run As） 73
ユーザ グループ 66, 68
　権限 68
　管理者ユーザ グループ（Administrator User Group） 66
　グループ（Groups） 66
　子グループ（Child Groups） 66